

第5編　山根IV遺跡Ⅱ

第1章 既往の調査

これまで山根IV遺跡では、平成19年に長野原町教育委員会によって町道拡幅に伴う試掘調査が行われ、縄文中期後半の遺物包含層が確認されている。その後、平成29年4月26日から5月1日に第2次調査の横壁土地改良事業に伴う試掘調査が行われた（第212図1～2、第29表）。その結果、平安時代の鍛冶関連と推定された遺構（註1）や遺物包含層、土師器や鉄滓など平安時代の遺物が確認され、本調査が行われることとなった。

註

（1）本調査では、鍛冶関連遺構ではなく、竪穴住居跡（SI02）とした。

第29表 山根IV遺跡調査一覧（文献番号は序説末の参考文献参照）

番号	調査年度	調査原因 ／調査種類	調査機関	調査面積 (開発面積)	概要	備考
1	平成19年度	町道拡幅 ／試掘調査	長野原町教育委員会	156m ²	遺構なし (縄文) 中期後半包含層	文献19
2	平成29年度	土地改良事業 ／試掘調査	長野原町教育委員会	435m ²	(平安) 竪穴住居跡	文献36

第2章 調査の経過

山根IV遺跡の発掘調査は、平成29年10月4日から開始し、同年12月28日に終了した。

10月4日、調査区の設定、境界柵・安全柵の設置、草刈りなどを開始する。10月10日、掘削範囲の設定を行う。調査区外に排土置場を確保できないため、反転して半分ずつ調査することになった。また、南部以外から重機の出入りができないため、北部から調査することになった。10月13日、北部の表土掘削を開始する。土地改良事業に伴う発掘調査であるため、畑の耕作土とそれ以外の土とを分けておく必要があり、畑の耕作土の掘削を行なった後、遺構確認まで掘削を行なった。10月19日、発掘調査地点の地権者と周辺の住民に発掘調査開始の挨拶に伺う。10月24日、表土掘削と並行して遺構検出作業を開始する。

11月1日、北部の表土掘削が終了した。11月30日、北部の空中写真撮影を実施する。

12月1日、北部1面の調査が終了した。SX03周辺の下層に遺構が存在することが明らかになったため、これを2面とし、表土掘削・遺構掘削を開始する。また2面以外の埋め戻しを開始する。12月6日、南部の表土掘削を開始する。12月7日、北部2面の調査が終了した。12月12日、南部の遺構検出を行い、掘削を開始する。12月16日、南部の表土掘削が終了した。12月21日、南部の空中写真撮影を実施する。12月28日、南部の調査が終了し、発掘調査は終了した。

第3章 基本層序

今回の発掘調査の基本層序は、A地点（北部南壁）・B地点（南部西端）の2か所で確認した。

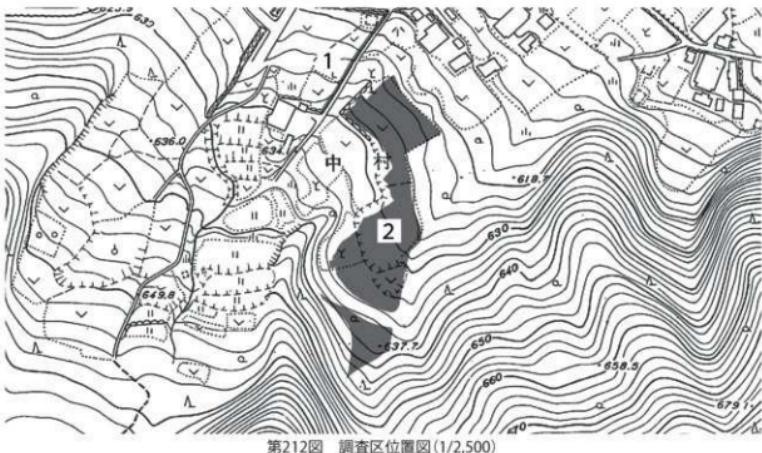
第I層 黒褐色土：表土である。粘性があり、しまりは弱い。砂礫（φ0.1～4.0cm）を含む。

第II層 黒褐色土：粘性は弱く、しまりはある。白色粒（φ0.1～0.5cm）を微量含む。

第III層 褐灰色土：粘性は弱く、しまりはある。As-Kk（φ0.1～0.5cm）を含む。

第IV層 灰黄色土：ローム二次堆積層である。粘性は弱く、しまりはある。ロームブロック（φ0.5～3.0cm）・黒色土ブロック（φ2.0～10.0cm）・砂礫（φ0.5～30cm）を含む。

第V層 黑褐色土：粘性は弱く、しまりはある。Ypk（φ0.1～1.0cm）・砂礫（φ0.2～10.0cm）を微量含む。

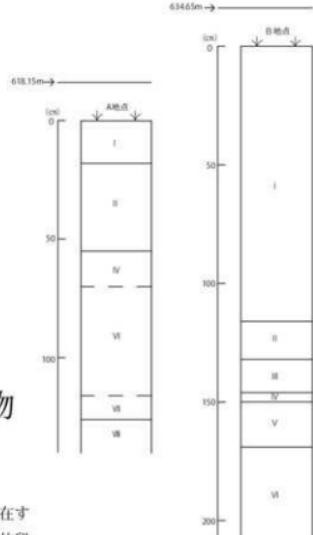


第212図 調査区位置図(1/2,500)

第VI層 褐灰色土：粘性・しまりともにある。YPk (ϕ 0.3 ~ 2.0cm) を含み、炭化粒 (ϕ 0.1 ~ 0.3cm)・砂礫 (ϕ 0.1 ~ 30.0cm)・褐色粒 (ϕ 0.5 ~ 1.0cm) を微量含む。試掘 34 ~ 38 号トレンチの5層に相当する。

第VII層 褐灰色土：ローム漸移層である。粘性・しまりともある。ロームブロック (ϕ 8.0 ~ 10.0cm)・YPk (ϕ 0.5 ~ 1.0cm) を含み、褐色粒 (ϕ 0.5 ~ 1.0cm)・砂礫 (ϕ 0.5 ~ 1.5cm) を微量含む。試掘 34 ~ 38 号トレンチの6層に相当する。

第VIII層 浅黄橙色土：ローム層である。粘性は弱く、しまりはある。YPk (ϕ 0.05 ~ 0.5cm) を含み、褐色粒 (ϕ 0.05 ~ 0.1cm)・砂礫 (ϕ 0.1 ~ 0.5cm) を微量含む。

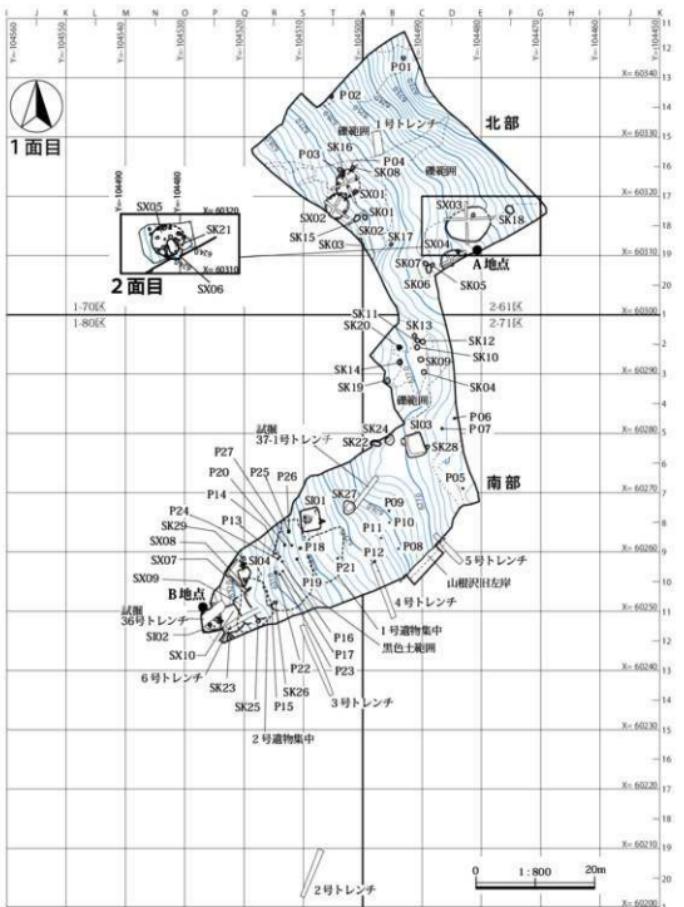


第213図 基本土層柱状図(1/20)

第4章 検出された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

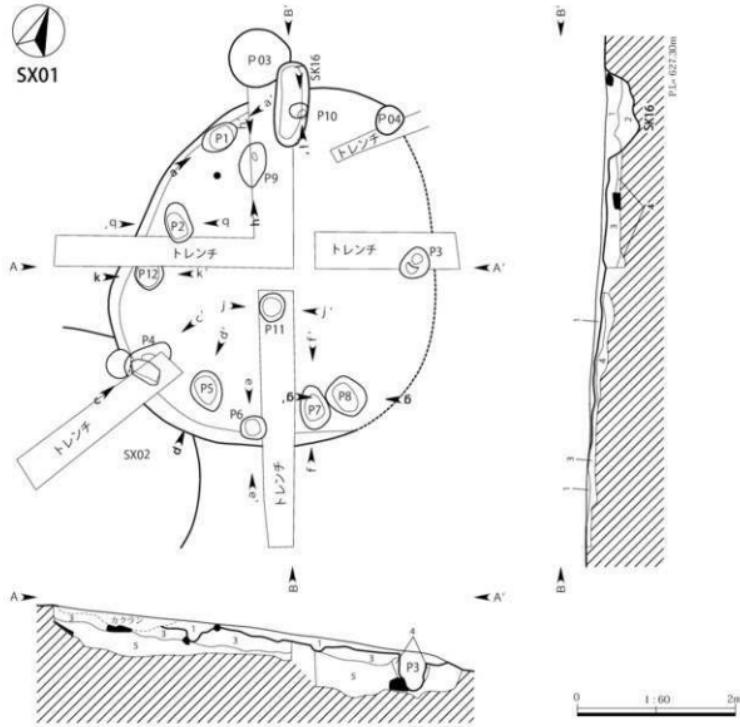
山根IV遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字横壁字山根に所在する平安時代の集落を主体とする遺跡である。吾妻川右岸の中位段丘面の南方に立地し、西側には中村沢、東側には山根沢が流れる。



第214図 調査区全体図(1/800)

山根沢によりもたらされたと考えられる堆積物や土砂崩れなどによる疊が調査区北部に多量に堆積している。調査区南東端で山根沢の旧左岸と推定される谷状の落ち込みが確認された。南西には丸岩山・菅峰、北には王城山がそびえる。南から北へ向かって下る傾斜地で、標高は621.8 m ~ 632.0 mである。現況は畠地である。

今回の発掘調査は山根IV遺跡の第2次調査にあたる。調査範囲は遺跡の南東部約2分の1にあたり、大字横壁字山根338-11他に所在する。確認された遺構は、縄文時代の竪穴状遺構6基、土坑5基、平安時代の竪穴住居跡4軒、竪穴状遺構3基、遺物集中2ヵ所、時期不明の土坑24基、ピット27基である。縄文時代の遺構は北部に分布し、竪穴住居跡など平安時代の遺構は南部に分布している。出土遺物の種類は、縄文土器、土

SX01上層説明
AA' BB'

カクラン 黒褐色土 層：粘性弱く、しまりあり。YPk(φ0.1~1.0cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.4cm)・ローブロック(φ0.5~4.0cm)微量含む。

1. 黒褐色土 層：粘性弱く、しまりあり。YPk(φ0.1~1.5cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.4cm)・ローブロック(φ0.5~6.0cm)微量含む。

2. 黒褐色土 層：粘性弱く、しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.4cm)微量含む。ローブロック(φ0.5~3.0cm)微量含む。

3. 暗オリーブ色土 層：粘性弱く、しまりあり。ローム粒(φ0.5~7.0cm)多量含む。YPk(φ0.1~2.0cm)含む。

4. 暗灰黄色土 層：粘性弱く、しまりあり。ローム粒(φ0.5~7.0cm)多量含む。YPk(φ0.1~0.3cm)微量含む。

5. 黒褐色土 層：粘性弱く、しまりやや弱い。YPk(φ0.1~0.3cm)微量含む。

第215図 SX01実測図(1/60)

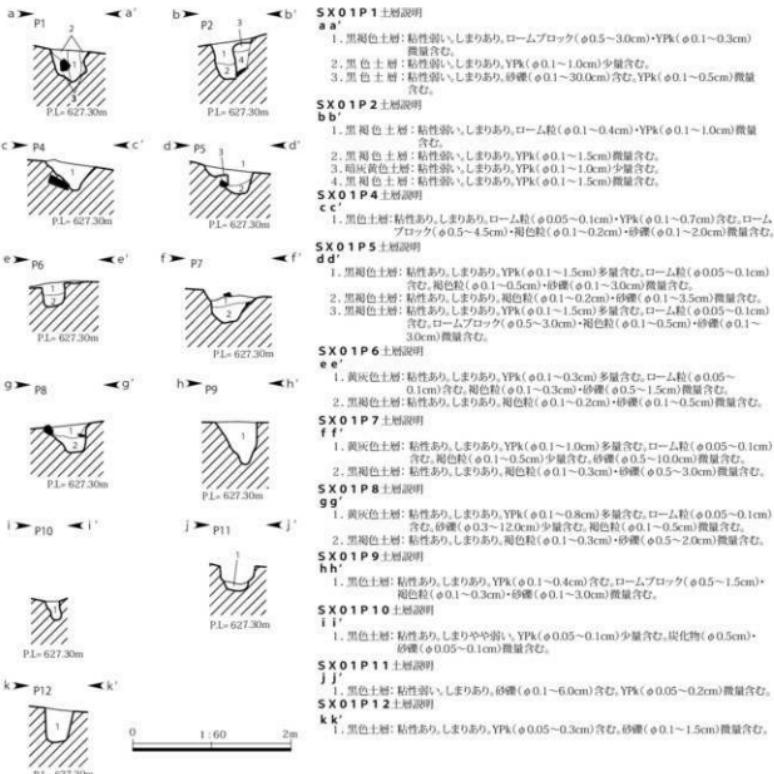
師器、須恵器、陶磁器、鉄製品で、その数量はテンバコ2箱分であった。

第2節 繩文時代の遺構と遺物

(1) 穴状遺構

SX01 (第215・216図/第30表/P.L. 27)

位置 I-70区T-16 重複関係 SX02・SK16と重複し、SK16より古く、SX02より新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 不整円形を呈する。規模は主軸4.86m、副軸4.06m、深さ69cm、床面積12.23m²。 **主軸方位** N-15°-E **壁・壁溝** 壁高は南壁14cm、西壁22cm、東壁24cm。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 路み繰りや貼床などは



第216図 SX01断面図(1/60)

認められなかった。柱穴 壁に沿ってめぐるP1～P12までを検出した。平面形は楕円形を呈するものが多い。規模については第30表に記した。炉 検出されなかつた。その他の施設 確認されなかつた。遺物出土状況 繩文土器片4点が出土中から出土した。遺物 出土遺物はいずれも小破片であるため図示しなかつた。

備考 立ち上がりが不明瞭で、炉や燒土、踏み繰りが認められないことから、住居とはせず竪穴状遺構として扱つた。出土遺物から縄文時代に帰属すると考えられる。

SX02 (第217図/第31表/P.L. 27)

位置 I-70区T-17 重複関係 SX01と重複し、本遺構の方が古い。遺存状態 良好。覆土 黒

第30表 SX01ピット計測表

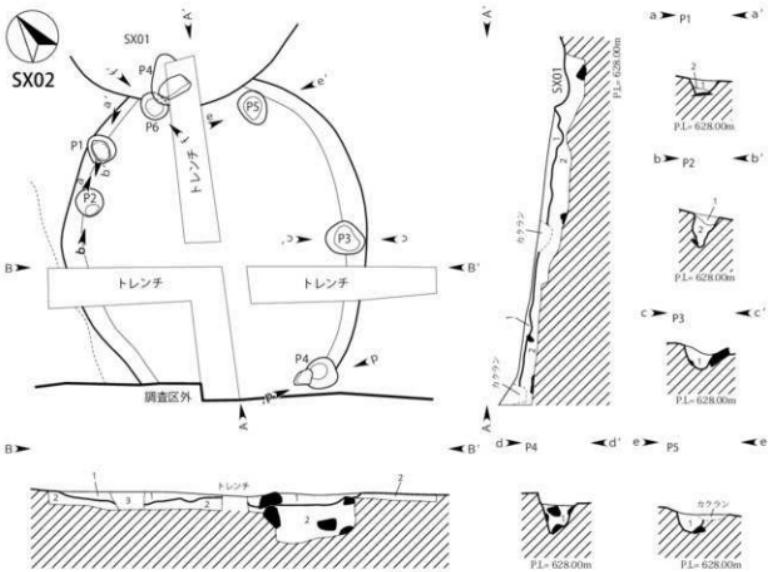
	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
長軸長(cm)	48	50	38	66	52	28
短軸長(cm)	30	32	32	(18)	38	32
深さ(cm)	39	46	47	33	29	29
	P 7	P 8	P 9	P10	P11	P12
長軸長(cm)	54	48	56	(100)	36	(32)
短軸長(cm)	36	44	34	52	32	34
深さ(cm)	43	34	53	24	9	42

褐色土が基調で、自然堆積を示す。平面形と規模 円形を呈する。規模は主軸 3.78 m 以上、副軸 3.82 m、深さ 34 cm、床面積 8.03 m²。主軸方位 N - 30° - E 壁・壁溝 壁高は北壁 33 cm、西壁 16 cm、東壁 46 cm。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。床面 踏み締りや貼床などは認められなかった。柱穴 壁に沿ってめぐる P 1 ~ P 6 までを検出した。平面形は橢円形を呈するものが多い。規模については第31表に記した。焼 焼出されなかった。その他の施設 確認されなかった。遺物出土状況 出土しなかった。

遺物 なし。備考 立ち上がりが不明瞭で、灰や焼土、踏み締りが認められないことから、住居とはせず竪穴状遺構として扱った。SX01 との重複関係から、縄文時代に帰属すると考えられる。

第31表 SX02 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
長軸 (cm)	36	34	44	40	42	34
短軸 (cm)	34	34	40	38	34	(22)
深さ (cm)	18	42	43	22	22	30



SX02上層説明

AA' BB'

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ 0.1~2.0cm)含む。ローム粒(φ 0.1~0.4cm)・ロームブロック(φ 0.5~4.0cm)微量含む。
2. 黄褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ 0.1~1.0cm)微量含む。
3. 黄褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ 0.1~1.0cm)含む。ロームブロック(φ 0.5~4.0cm)・炭化物(φ 0.5~1.5cm)微量含む。

SX02P1土層説明

aa'

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ 0.1~0.3cm)微量含む。ロームブロック(φ 0.5~2.0cm)微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ 0.1~0.5cm)微量含む。

SX02P2土層説明

bb'

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ 0.1~0.5cm)微量含む。ロームブロック(φ 0.5~2.5cm)微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ 0.1~0.2cm)微量含む。

SX02P3土層説明

cc'

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒(φ 0.1~0.4cm)・ロームブロック(φ 0.5~3.0cm)・YPk(φ 0.1~2.0cm)微量含む。

SX02P4土層説明

dd'

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、褐色粒(φ 0.1~0.2cm)・砂礫(φ 0.1~4.0cm)微量含む。

SX02P5土層説明

ee'

1. 黄灰色土層: 粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ 0.05~0.1cm)・YPk(φ 0.1~0.5cm)含む。褐色粒(φ 0.1~0.3cm)・砂礫(φ 0.1~0.2cm)微量含む。

SX02P6土層説明

ff'

1. 黑褐色土層: 粘性あり、しまりあり、YPk(φ 0.05~1.0cm)含む。褐色粒(φ 0.05~0.8cm)・砂礫(φ 0.1~2.5cm)微量含む。



第217図 SX02実測図(1/60)

SX03 (第218～220図／第32・38表／P L 27・33)

位置 2-61 区D-18 重複関係 SX05の上層に位置する。

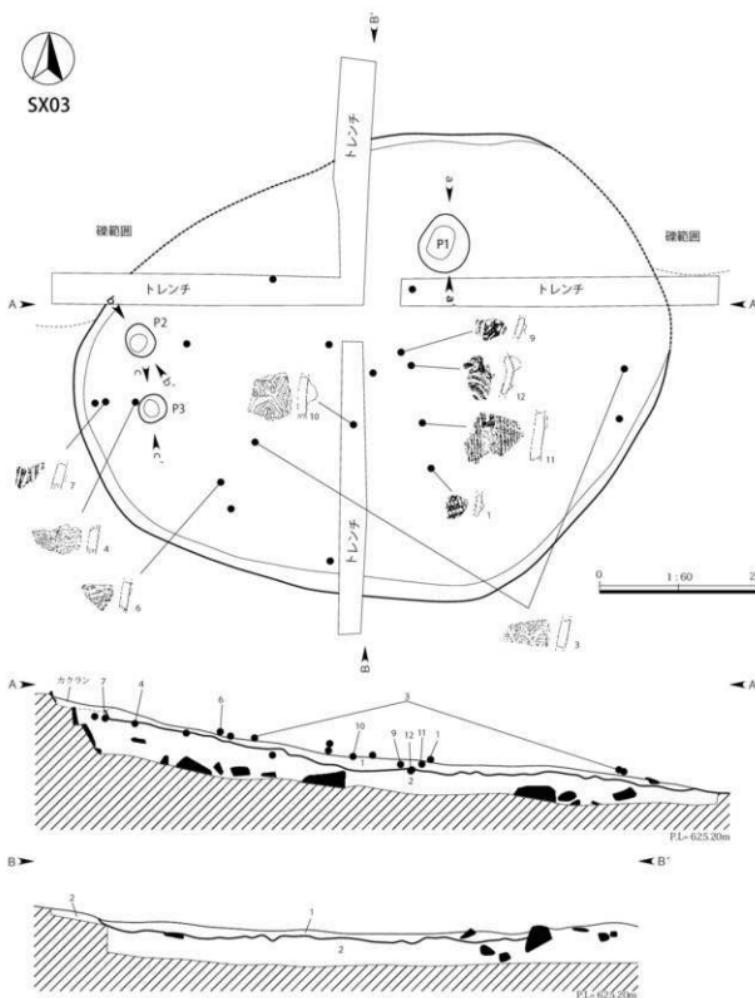
遺存状態 良好。 地土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示

地形と規模 不整複雑形を呈する。周囲は主軸推定 7.62

主軸方位 N-
m. 前軸 5.96 m. 深さ 48 cm. 床面積 29.98 m²

第32表 SX03 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3
長軸長(cm)	70	42	36
短軸長(cm)	64	34	34
深さ(cm)	44	23	14



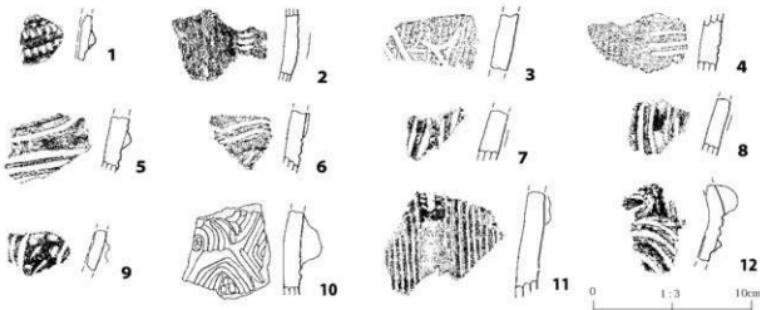
第218図 SX03実測図・遺物出土状況図(1/60)

87°-E 壁・壁溝 壁高は北壁 7cm、南壁 5cm、西壁 12cm、東壁 7cm。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 床面 踏み締りや貼床などは認められなかった。 柱穴 P 1 ~ P 3 を検出した。平面形は円形を呈する。規模については第32表に記した。 炉 検出されなかった。 その他の施設 確認されなかった。

遺物出土状況 焼町類型・勝坂式の縄文土器片が混在して出土した。 遺物 出土遺物 28 点のうち、文様の識別出来るものを選び、縄文土器片 12 点を図示した。 備考 立ち上がりが不明瞭で、炉や焼土、踏み締りが認められないことから、住居とはせず竪穴状遺構として扱った。出土遺物から縄文時代中期中葉（勝坂式期）に帰属すると考えられる。



第219図 SX03断面図(1/60)



第220図 SX03出土遺物実測図(1/3)

SX04 (第221・222図/第33・38表/P L 27・33)

位置 2-61区C-19 重複関係なし。 遺存状態 南東部の約半分は調査区外であるが、概ね良好である。

覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と

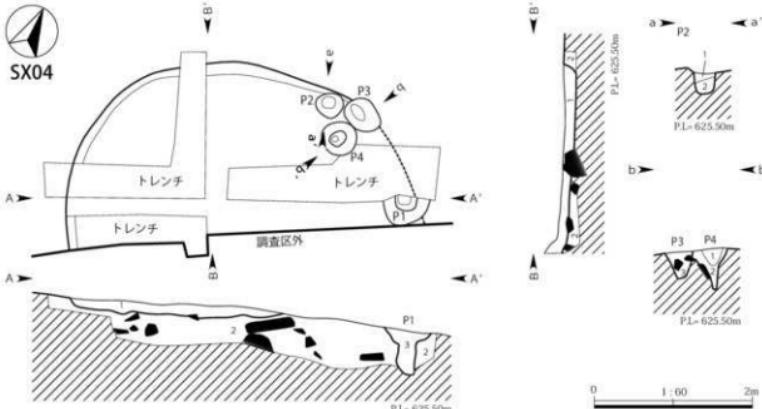
規模 円形を呈する。規模は主軸 4.48 m、副軸 2.16 m以上、深さ 63cm、床面積 6.28m²。 主軸方位 N-62°-E 壁・壁溝 壁高は北壁 16cm、西壁 9cm、東壁 30cm。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。

床面 踏み締りや貼床などは認められなかった。 柱穴 P 1 ~ P 4 を検出したが、並びに規則性は見られなかった。規模については第33表に記した。 炉 検出されなかった。 その他の施設 確認されなかった。

遺物出土状況 覆土から 1 点、P 2 から 1 点の勝坂式縄文土器片が出土した。 遺物 縄文土器片 2 点を図示した。 備考 立ち上がりが不明瞭で、炉や焼土、踏み締りが認められないことから、住居とはせず竪穴状

第33表 SX04 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4
長軸長(cm)	(38)	32	46	44
短軸長(cm)	56	32	38	34
深さ(cm)	55	25	34	52



SX04 土層説明

A-A' B-B'

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒(φ0.1~0.4cm)・ロームブロック(φ0.5~7.0cm)・YPk(φ0.1~1.5cm)微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、YPk(φ0.1~1.0cm)微量含む。
3. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ロームブロック(φ0.5~5.0cm)少量含む、ローム粒(φ0.1~0.4cm)・YPk(φ0.1~1.5cm)微量含む。

SX04 P3-P4 土層説明

a a' b b'

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.4cm)・ロームブロック(φ0.5~2.5cm)・YPk(φ0.1~0.3cm)微量含む。
2. 順次黄色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.4cm)・ロームブロック(φ0.5~4.0cm)・YPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。

SX04 P3-P4 土層説明

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.1~1.0cm)少量含む。褐色粒(φ0.1~0.2cm)・砂礫(φ0.1~9.0cm)微量含む。
2. 順次黄色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.05~0.1cm)含む。YPk(φ0.1~0.5cm)少量含む。褐色粒(φ0.1~0.3cm)・砂礫(φ0.1~2.5cm)微量含む。
3. 黄灰土層: 粘性あり、しまりあり、砂礫(φ0.1~1.5cm)含む。YPk(φ0.1~0.2cm)・褐色粒(φ0.05~0.1cm)微量含む。

第221図 SX04実測図(1/60)



第222図 SX04出土遺物実測図(1/3)

遺構として扱った。出土遺物から縄文時代中期中葉（勝坂式期）に帰属すると考えられる。

SX05 (第223 ~ 225図/第34・38表/P L 28・33)

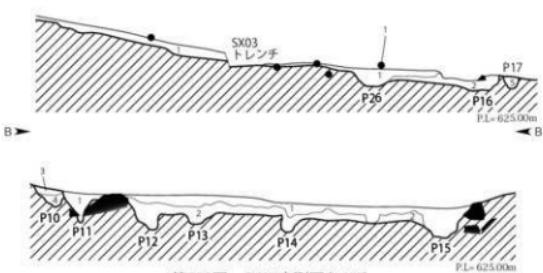
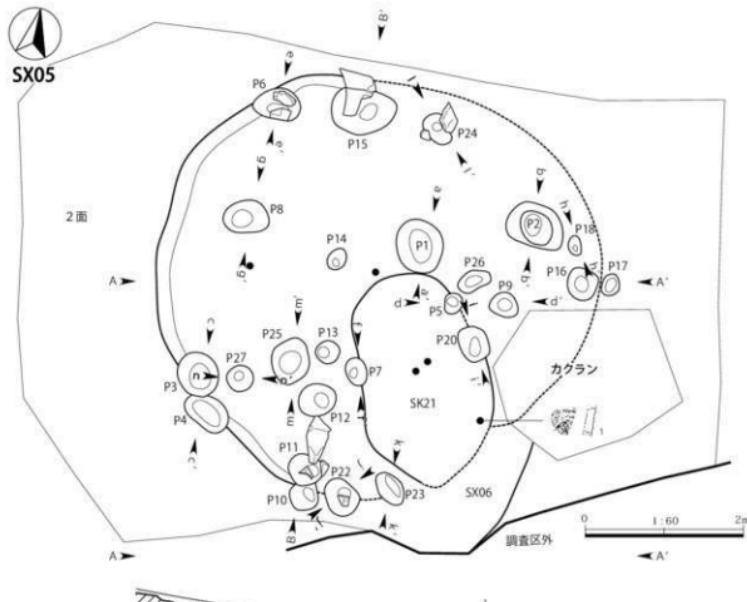
位置 2-61 区D-18 **重複関係** SX03の下層に位置する。SX06・SK21と重複し、本遺構の方が新しい。

遺存状態 東側は削平されており壁は現存しない。**覆土** 上層は黒色土、下層は黄灰色土が基調で、自然堆積を示す。

平面形と規模 削平を受けており不明確だが平面形は円形を呈すると考えられる。規模は主軸5.6m、副軸推定5.28m、深さ22cm、床面積19.62m²。**主軸方位** N-77°-E **壁・壁溝** 壁高は北壁6cm、南壁12cm、西壁7cm。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。**床面** 踏み締りや貼床などは認められなかった。**柱穴** P1 ~ P27までを検出したが、後にP19とP21はSX03に伴うものと判断し遺構名を振り替えたため欠番とした。規模については第34表に記した。**炉** 検出されなかった。**その他施設** 確認されなかった。**遺物出土状況** 本遺構覆土から縄文土器片が5点、P2・P8の覆土中からそれぞれ縄文土器片が2点出土した。**遺物** 本遺構覆土から出土した縄文土器片1点を図示した。**備考** 立ち上がりが不明瞭で、炉や焼土、踏み締りが認められないことから、住居とはせず竪穴状遺構として扱った。出土遺物から縄文時代中期中葉に帰属すると考えられる。

第34表 SX05 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P10	P11
長軸長(cm)	68	72	54	60	26	58	36	58	34	(30)	46
短軸長(cm)	58	52	52	38	22	40	26	40	30	34	40
深さ(cm)	16	67	20	19	17	33	28	40	18	22	38
	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P20	P22	P23	P24
長軸長(cm)	46	30	26	80	38	28	26	44	48	46	42
短軸長(cm)	40	28	24	56	36	22	16	36	40	28	(24)
深さ(cm)	44	37	36	37	19	15	13	49	18	12	35
	P25	P26	P27								
長軸長(cm)	52	36	32								
短軸長(cm)	46	24	32								
深さ(cm)	22	22	19								



第223図 SX05実測図(1/60)



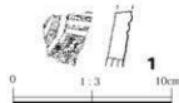
第224図 SX05断面図(1/60)

SX06 (第226図／PL 28)

位置 2-61区D-18 **重複関係** SX05・SK21と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** SK21などに壊され、壁はほとんど現存しない。また南側は調査区外である。**覆土** オリーブ黒色土が基調で、自然堆積を示す。

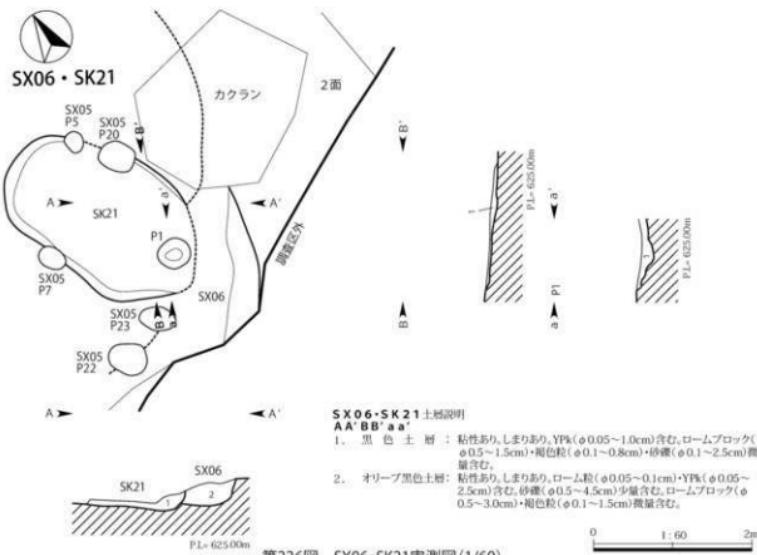
平面形と規模 平面形は遺存状態が悪いため不明。規模は主軸1.98m以上、副軸0.8m以上、深さ28cm、床面積0.51m²。**主軸方位** N-23°-E **壁・壁溝** 壁高は東壁で22cm。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。**床面** 踏み締りや貼床などは認められなかった。

柱穴 確認されなかった。**炉** 検出されなかった。**他の施設** 確認されなかった。**遺物出土状況** 出土しなかった。**遺物** なし。**備考** 立ち上がりが不明瞭で、炉や焼土、踏み締りが認められないことから、住居とはせず竪穴状遺構として扱った。SX05に切られていることから縄文時代に帰属すると考えられる。



第225図 SX05出土遺物
実測図(1/3)

山根IV
遺跡II



第226図 SX06・SK21実測図(1/60)

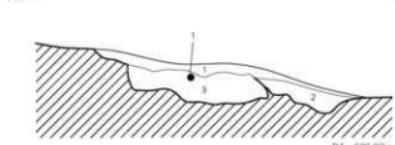
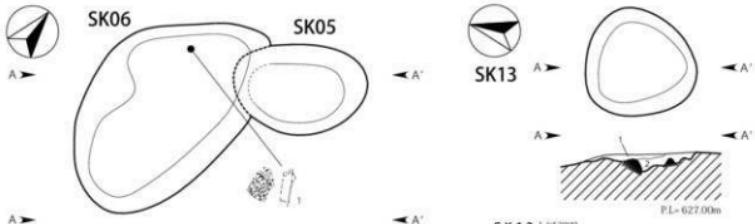
(2) 土坑

SK05 (第227図)

位置 2-61区C-19 **重複関係** SK06と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 南西壁をSK06に壊されるが、概ね良好である。**覆土** に赤い黄色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸66cm以上、短軸52cm、深さ16cm。**主軸方位** N-55°-E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。**底面** 凹凸がある。**遺物** なし。**備考** 遺物は出土していないが、SK06と似た覆土で埋没しているため縄文時代に帰属すると考えられる。

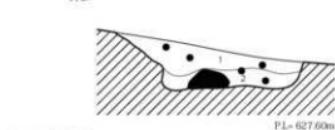
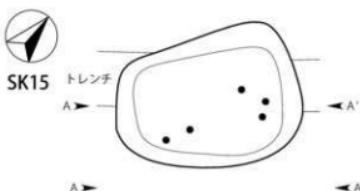
SK06 (第227・228図／第38表／PL 28・33)

位置 2-61区C-19 **重複関係** SK05と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 良好。**覆土** 黑



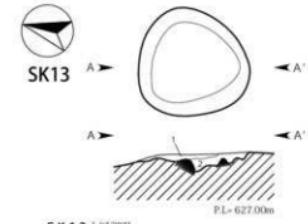
SK05-06 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、黄色粒（φ0.1～0.4cm）微量含む。
2. にじみ黄色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、黄色粒（φ0.1～0.4cm）含む。
3. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、黄色粒（φ0.1～0.4cm）微量含む。



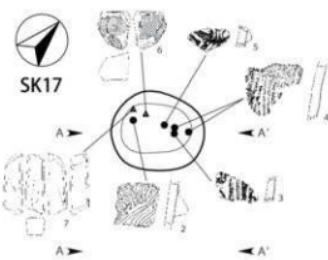
SK15 土層説明
AA'

1. 黄灰色土層：粘性あり、しまりあり、褐色粒（φ0.1～0.3cm）多量含む、炭化物（φ0.5cm）少額含む。Ypk（φ0.1～1.5cm）少量含む。ローム粒（φ0.1～0.4cm）、ロームフロック（φ0.5～3.0cm）微量含む。
2. 喀灰黄色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.4cm）、砂礫（φ0.5～25.0cm）含む。褐色粒（φ0.1～0.2cm）少量含む。Ypk（φ0.1～0.5cm）微量含む。



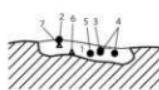
SK13 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、黄色粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
2. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ロームフロック（φ0.5～2.5cm）少量含む。黄色粒（φ0.1～0.4cm）微量含む。



SK17 土層説明
AA'

1. 喀灰黄色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.4cm）、ロームフロック（φ0.5～4.0cm）、黄色粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。



0 1:30 1m

第227図 SK05-06・13・15・17実測図(1/30)

褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 不整格円形を呈する。規模は長軸 150cm、短軸 76cm、深さ 26cm。**主軸方位** N-10°-E **壁面** 南西壁は外傾し、北東壁は内傾して立ち上がる。**底面** やや凹凸がある。**遺物** 繩文土器 1 点が出土し、図示した。**備考** 帰属時期は、出土遺物から縄文時代と考えられる。

SK13 (第227図/PL 28)

位置 2-71区B-1 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

平面形と規模 不整円形を呈する。規模は長軸 70cm、短軸 68cm、深さ 11cm。**主軸方位** N-4°-W

壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央がやや窪んだ皿状を呈する。 **遺物** 型式不明の縄文土器片が1点出土したが、小破片のため図示しなかった。 **備考** 彌生時代は、出土遺物から縄文時代と考えられる。

SK15 (第227図／PL 28)

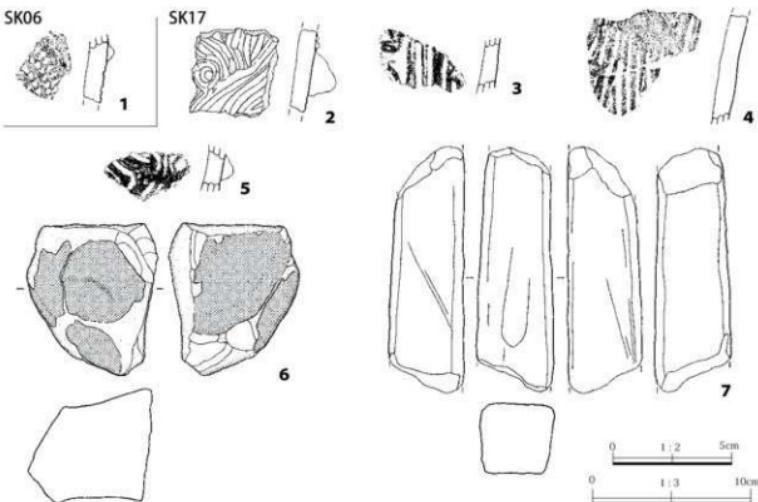
位置 I-70区T-17 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黄灰色土、下層は暗灰黄色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 圓丸長方形を呈する。規模は長軸120cm、短軸74cm、深さ31cm。 **主軸方位** N-56°-E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 型式不明の縄文土器片が5点出土したが、小破片のため図示しなかった。 **備考** 彌生時代は、出土遺物から縄文時代と考えられる。

SK16 (第215図)

位置 I-70区T-16 **重複関係** SX01と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸114cm、短軸44cm、深さ43cm。 **主軸方位** N-20°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸があり、南に向かって傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** SX01と覆土を同じくするが、SX01の壁や床、P10を切る。

SK17 (第227・228図／PL 28・33)

位置 2-61区A-18 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗灰黄色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸59cm、短軸44cm、深さ10cm。 **主軸方位** N-60°-E **壁面** 南西壁はほぼ垂直に、北東壁は内傾して立ち上がる。 **底面** 北東に向かって傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** 焼町類型を含む縄文土器片4点と安山岩の砥石1点、磨石が1点出土している。出土した遺物は全て図示した。 **備考** 彌生時代は、出土遺物から縄文時代中期中葉と考えられる。



第228図 縄文時代土坑出土遺物実測図(1/2+1/3)

SK21 (第 226 図)

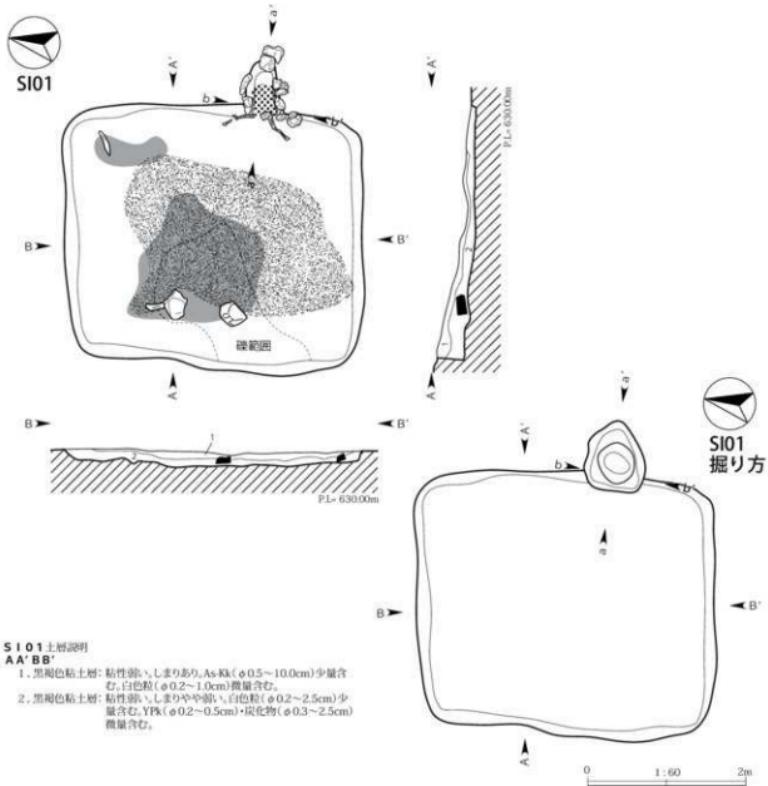
位置 2-61 区 D-18 重複関係 SX03・05・06 と重複し、SX06 より新しく SX03・05 より古い。

遺存状態 上部が削平されている。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸推定 272cm、短軸 164cm、深さ 18cm。本遺構の南側には P 1 が確認された。平面形は円形で、長軸 38cm、短軸 36cm、深さ 80cm。 **主軸方位** N-15°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 南東に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 墓域時期は、SX05 に切られることから縄文時代と考えられる。

第3節 平安時代の遺構と遺物

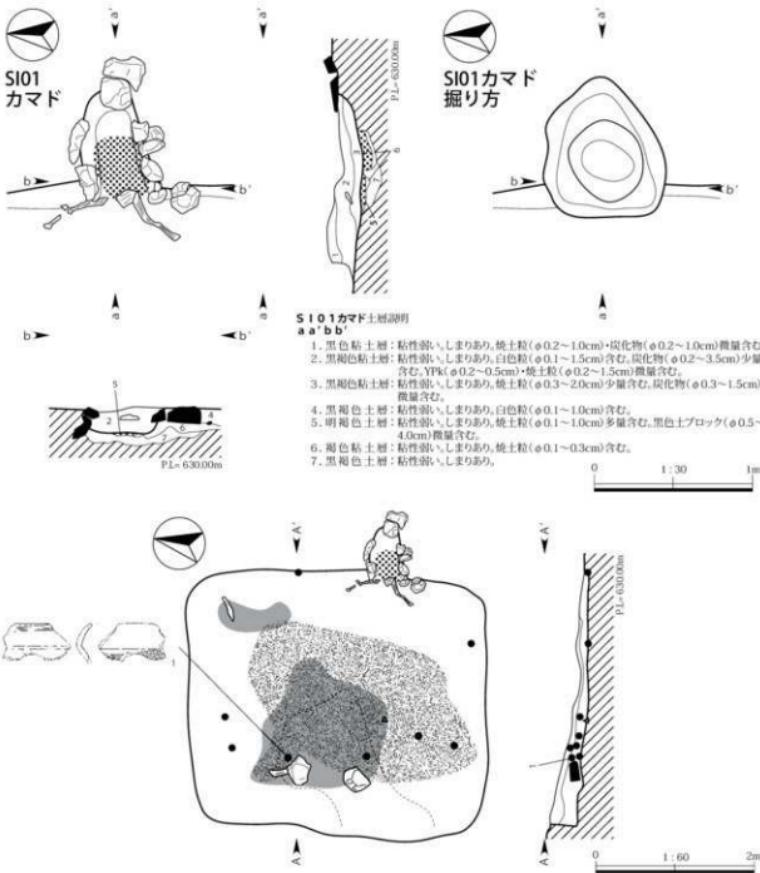
(1) 竪穴住居跡

SI01 (第 229 ~ 231 図 / 第 37・38 表 / P L 29・30・33)

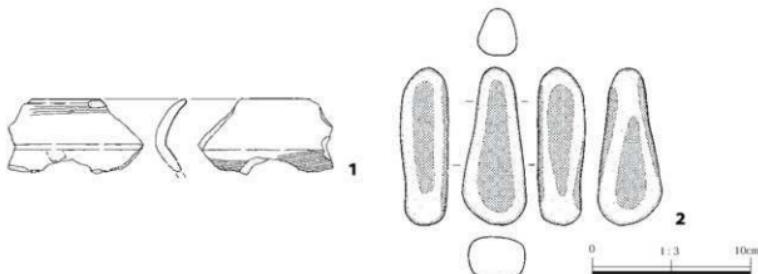


第229図 SI01・掘り方実測図(1/60)

位置 I-80区S-7 重複関係なし。遺存状態 良好。覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。また、覆土中よりAs-Kkが検出されている。**平面形と規模** 深丸形を呈する。規模は主軸3.4m、副軸3.76m、深さ39cm、床面積10.69m²。**主軸方位** N-80°-E **壁・壁溝** 壁高は北壁13cm、南壁11cm、西壁40cm、東壁6cm。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。**床面** 直床式で、踏み締りは確認されなかった。窓ね平坦である。**柱穴** 確認されなかった。**カマド** 東壁中央やや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。全長72cm、最大幅42cm、火床面は13cm掘り込まれ、焼土部分は8cmの厚さを有する。周囲に散乱した自然石が支持材として用いられたと考えられる。**その他の施設** 確認されなかった。**遺物出土状況** 土師器甕1点、器種不明の土師器片10点、磨石1点、チャートの剥片1点が出土した。**備考** 本遺構は小型の窓穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半頃と考えられる。



第230図 SI01カマド・カマド掘り方実測図(1/30)・遺物出土状況図(1/60)

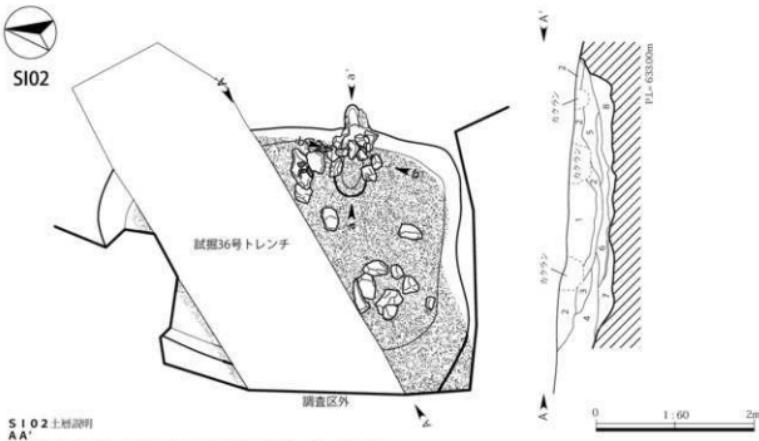


第231図 SI01出土遺物実測図(1/3)

SI02 (第232～234図／第37・38表／P L 29・30・33)

位置 I-80区O-11 重複関係なし。 遺存状態 南壁が調査区外であるが、概ね良好である。

覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。覆土上層よりAs-Kkが検出された。 **平面形と規模** 丸柱長方形を呈する。規模は主軸3.15m以上、副軸4.56m、深さ70cm、床面積12.88m²。**主軸方位** N-84°-E **壁・壁溝** 壁高は北壁47cm、南壁58cm、西壁46cm、東壁38cm。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。**床面** 直床式で、踏み織りは確認されなかった。**柱穴** 確認されなかった。**カマド** 東壁中央南寄りに位置し、遺存状態は良好である。全長115cm、最大幅32cm、火床面は12cm掘り込まれ、焼土部分は10cmの厚さを有する。支持材には自然石が用いられる。**その他の施設** 確認されなかった。**遺物出土状況** 南側を中心に覆土中からまばらに出土した。**遺物** 出土遺物のうち、土器師機1点、羽釜3点、磨石

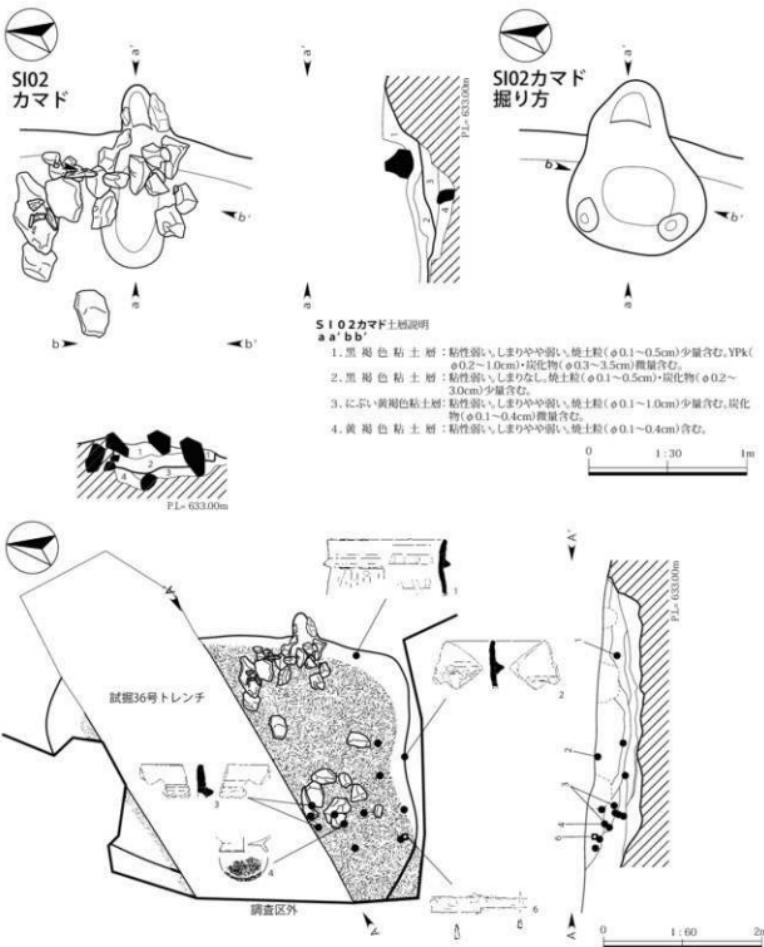


SI02実測図
AA'

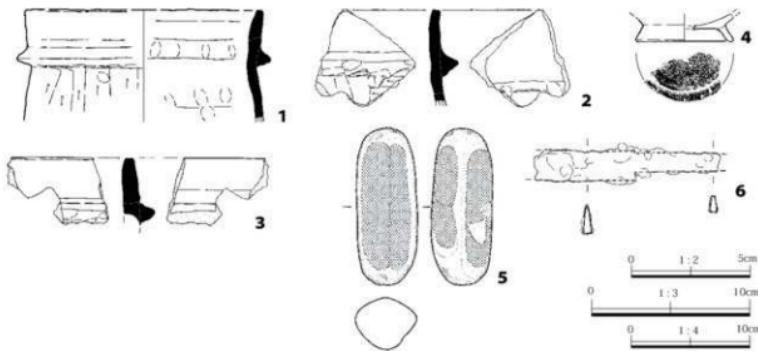
1. 黒褐色粘土層：粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.1～0.5cm)微量含む。
2. 黒褐色粘土層：粘性弱い、しまりやや弱い、As-Kk(φ0.5～10cm)少量含む、YPk(φ0.2～1.0cm)・炭化物(φ0.2～1.0cm)微量含む。
3. 黒褐色粘土層：粘性弱い、しまりやや弱い、YPk(φ0.2～1.0cm)・炭化物(φ0.2～0.5cm)微量含む。
4. 黒オリーブ褐色粘土層：粘性弱い、しまりやや弱い、YPk(φ0.2～1.5cm)・炭化物(φ0.3～2.0cm)微量含む。
5. 黒褐色粘土層：粘性弱い、しまりやや弱い、YPk(φ0.2～1.0cm)・炭化物(φ0.2～2.5cm)微量含む。
6. 黑褐色粘土層：粘性弱い、しまりやや弱い、炭化物(φ0.2～1.0cm)少量含む、燒土粒(φ0.2～20cm)微量含む。
7. 黑オリーブ褐色粘土層：粘性弱い、しまりやや弱い、YPk(φ0.2～1.5cm)・炭化物(φ0.2～1.0cm)微量含む。
8. 黑オリーブ褐色粘土層：粘性弱い、しまりやや弱い、YPk(φ0.2～1.5cm)・炭化物(φ0.2～1.0cm)微量含む。

第232図 SI02実測図(1/60)

1点、刀子1点を図示した。 **備考** 本遺構は中型の竪穴住居跡である。試掘段階では鉄滓が4点出土し、鍛治関連遺構と見られていたが、その後の本調査では刀子が1点出土したのみでその他鐵滓や微細遺物は検出されなかった。よって、鍛治関連遺構と断定できなかったため、通常の竪穴住居跡として扱うこととした。帰属時期は、出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。



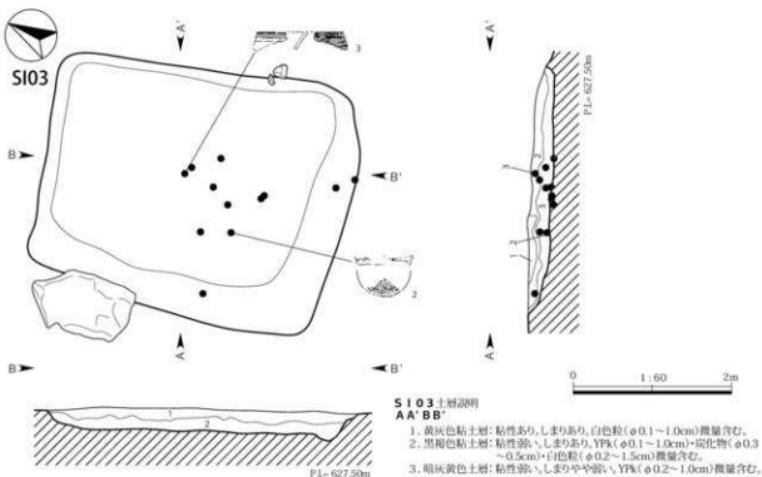
第233図 SI02カマド・カマド掘り方実測図(1/30)・遺物出土状況図(1/60)



第234図 SI02出土遺物実測図(1/2・1/3・1/4)

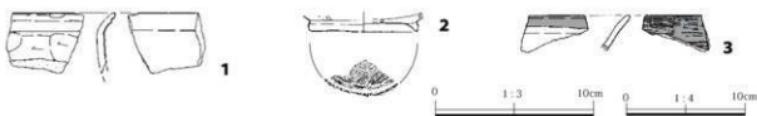
SI03(第235・236図/第37・38表/P L 30・33)

位置 2-71区B-5 **重複関係** SK28と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗灰黄色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 防丸長方形を呈する。規模は主軸3.11m、副軸3.89m、深さ29cm、床面積7.74m²。 **主軸方位** N-73°E **壁・壁溝** 壁高は北壁13cm、南壁34cm、西壁13cm、東壁14cm。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 直床式で、踏み締りは確認されなかった。 **柱穴** 確認されなかった。 **カマド** 確認されなかった。 **その他施設** 確認されなかった。 **遺物出土状況** 口の字状口縁甕を含む土師器片30点、土師質土器の杯碗類2点、器種不明の須恵器片2点が出土した。 **遺物** 出土遺物のうち、土師器壺1点、土師質土器の杯碗類2点を図

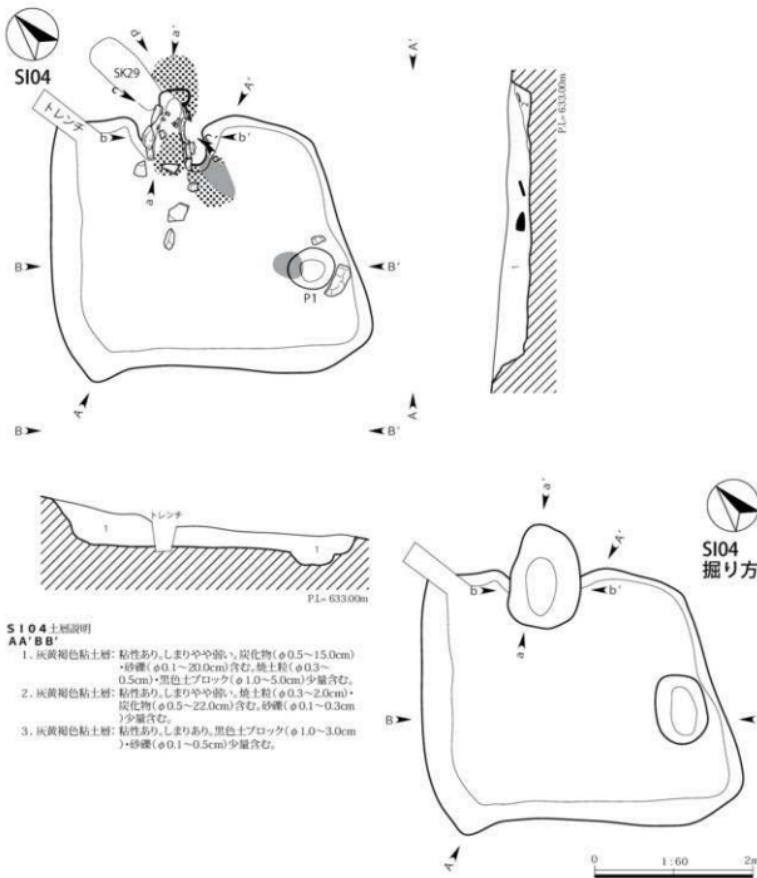


第235図 SI03実測図・遺物出土状況図(1/60)

示した。 備考 便宜上住居として扱ったが、カマドなどの施設を伴わず壁や床面も不明瞭であるため、住居ではない可能性がある。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半から10世紀後半頃と考えられる。



第236図 SI03出土遺物実測図 (1/3・1/4)



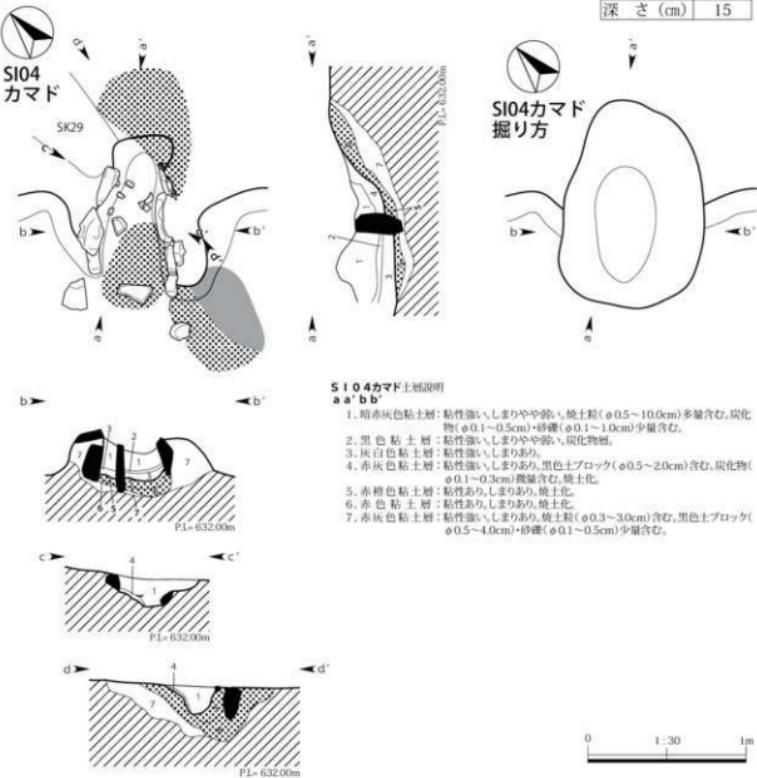
第237図 SI04・掘り方実測図 (1/60)

SI04(第237~240図/第35・37・38表/PL 31・33・34)

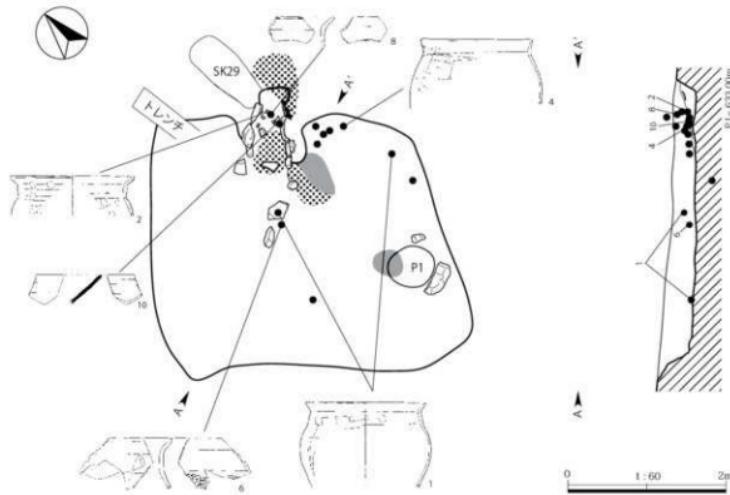
位置 I-80区P-9 **重複関係** SX08・SK29と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 粘土質の灰黄褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 圆丸形を呈する。規模は主軸3.28m、副軸3.8m、深さ45cm、床面積9.38m²。 **主軸方位** N-38°E **壁・壁溝** 壁高は北壁25cm、南壁36cm、西壁40cm、東壁19cm。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 直床式で、踏み締りは確認されなかった。概ね平坦である。 **柱穴** 確認されなかった。 **カマド** 北壁ほぼ中央に位置し、遺存状態は良好である。全長108cm、最大幅40cm、火床面は14cm掘り込まれ、焼土部分は11cmの厚さを有する。支持材は切り石が用いられる。 **その他の施設** P1を確認した。形態から貯蔵穴の可能性が考えられる。 **遺物出土状況** カマド周辺を中心にコの字状口縁甕、須恵器杯碗類などが出土した。 **備考** 本遺構は小型の竪穴住居である。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半頃と考えられる。

第35表 SI04ピット計測表

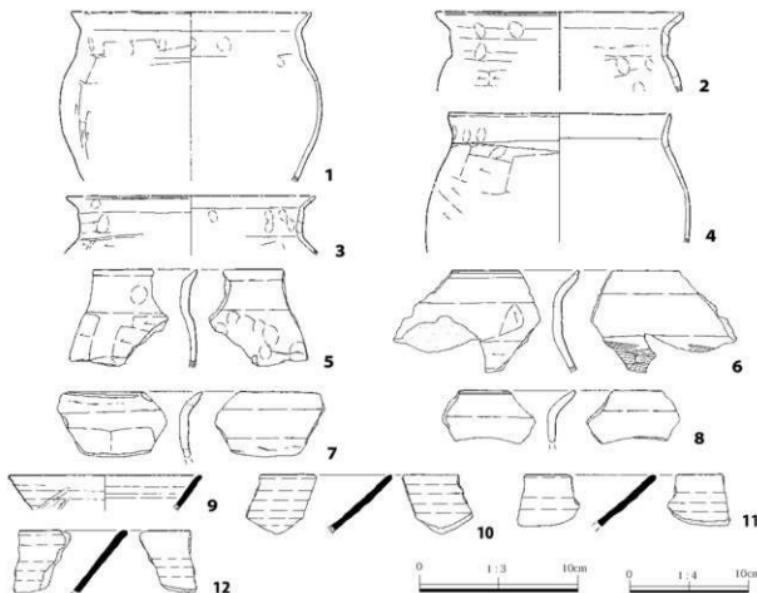
	P1
長軸長(cm)	60
短軸長(cm)	50
深さ(cm)	15



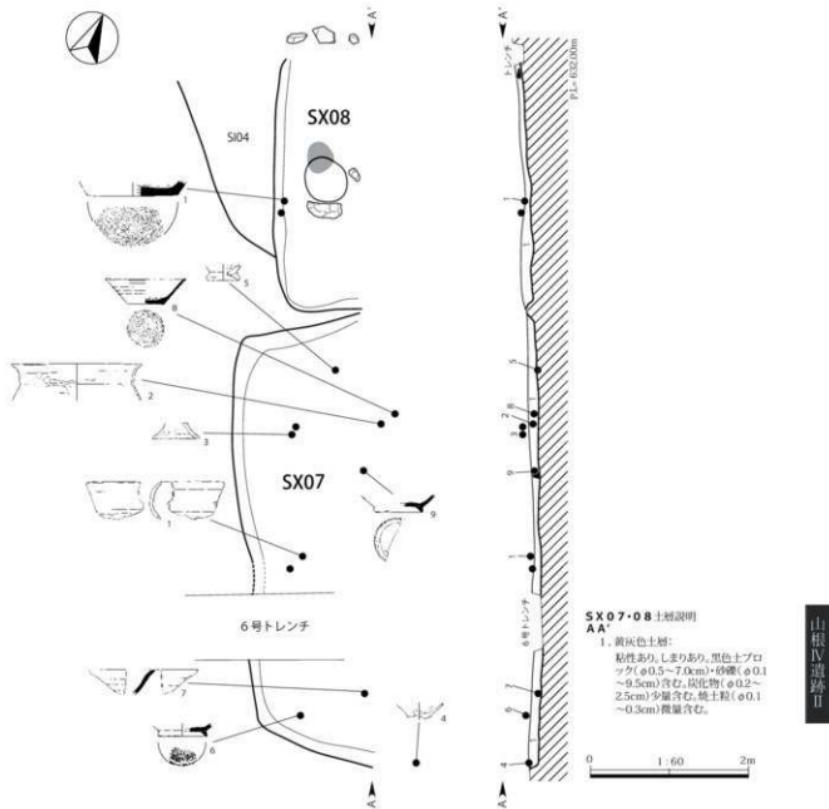
第238図 SI04カマド・カマド掘り方実測図(1/30)



第239図 SI04遺物出土状況図(1/60)



第240図 SI04出土遺物実測図(1/3・1/4)



第241図 SX07・08実測図・遺物出土状況図(1/60)

(2) 穫穴状遺構

SX07 (第241・242図/第38表/P L 31・34)

位置 I-80区Q-11 重複関係 SX09と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 東部3分の2程度は削平されたと考えられ、現存しない。

覆土 黄灰色土が基調で、自然堆積を示す。

平面形と規模 圆丸方形を呈する。規模は主軸 5.66 m、副軸 1.48 m以上、深さ 13cm、床面積 2.89m²。

主軸方位 N-25°-W

壁・壁溝 壁高は北壁 9cm、南壁 12cm。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。

床面

踏み繰りや貼床などは認められなかった。

柱穴 確認されなかった。

カマド 確認されなかった。

その他の施設 確認されなかった。

遺物出土状況 須恵器の杯碗類4点に、土師器甕・台付甕を含む土師器片

が64点出土した。調査時点ではSU02の遺物番号を付して取り上げたものも、出土位置から本遺構に伴うと

考えられるものは本項に含めた。

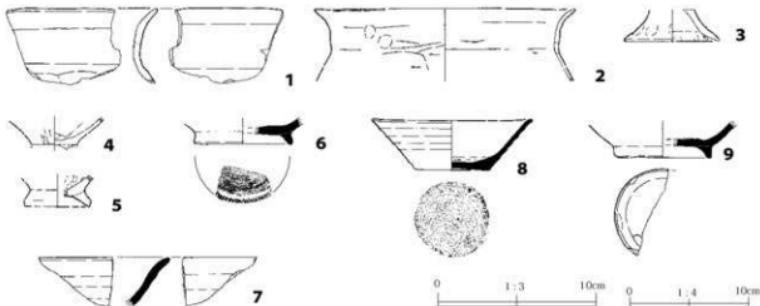
遺物 土師器甕2点、土師器台付甕3点、須恵器杯碗類4点を図示した。

備考 カマドやその他の施設が確認されず、住居と断定できなかったため竪穴状遺構とした。帰属時期は、

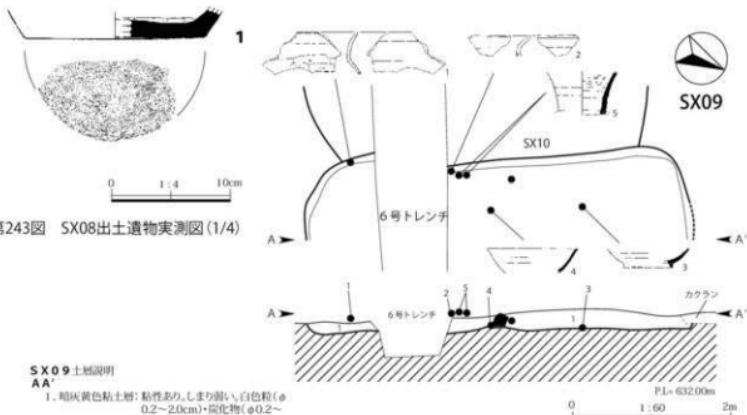
出土遺物から9世紀頃と考えられる。

SX08 (第241・243図/第38表/P L 32・34)

位置 I-80区P-9 **重複関係** SI04と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 東部3分の2程度は削平されたと考えられ、現存しない。**覆土** 黄灰色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 半丸方形を呈する。規模は主軸3.14m以上、副軸1.1m以上、深さ15cm、床面積2.58m²。**主軸方位** N-24°-W **壁・壁溝** 壁高は南壁10cm。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。**床面** 踏み締りや貼床などは認められなかった。**柱穴** 確認されなかった。**カマド** 確認されなかった。**その他の施設** 確認されなかった。**遺物出土状況** 器種不明の土師器片25点、鉢を含む須恵器片3点、灰釉陶器片1点が出土している。**遺物** 須恵器鉢1点を図示した。**備考** カマドやその他の施設が確認されず、住居と断定できなかつたため竪穴状遺構とした。帰属時期は、出土遺物から平安時代と考えられる。



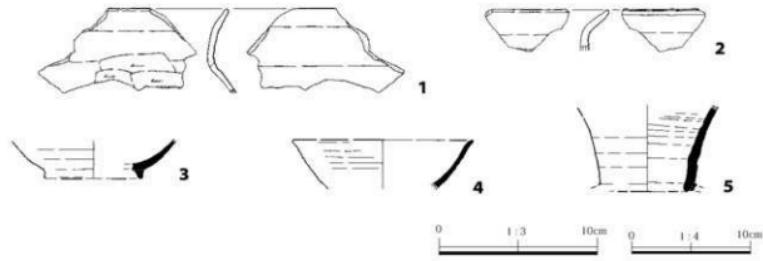
第242図 SX07出土遺物実測図(1/3・1/4)



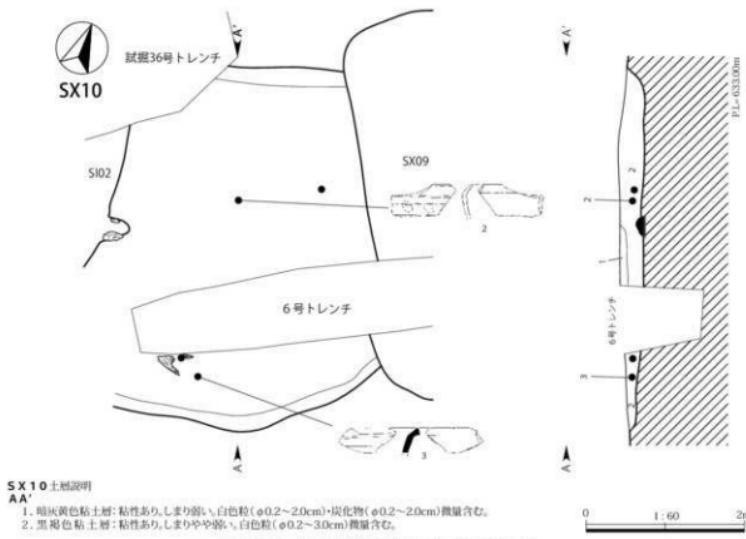
第244図 SX09実測図・遺物出土状況図(1/60)

SX09 (第244・245図／第38表／P L 32・34)

位置 I-80区P-10 **重複関係** SX07・10と重複し、SX07より古く、SX10より新しい。 **遺存状態** 東半分はSX07に壊され現存しない。 **覆土** 暗灰黄色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 圆丸方形を呈する。規模は主軸4.88m、副軸0.95m以上、深さ24cm、床面積3.56m²。**主軸方位** N-29°W **壁・壁溝** 壁高は北壁16cm、南壁14cm。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 踏み締りや貼床などは認められなかった。 **柱穴** 確認されなかった。 **カマド** 確認されなかった。 **その他の施設** 確認されなかった。 **遺物出土状況** 口字状口縁甕を含む土師器片35点、椀・長頸瓶などの須恵器3点が出土した。 **遺物** 土師器甕2点、須恵器の杯椀類2点と長頸瓶1点を図示した。 **備考** カマドやその他の施設が確認されず、住居と断定できなかったため竪穴式遺構とした。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。



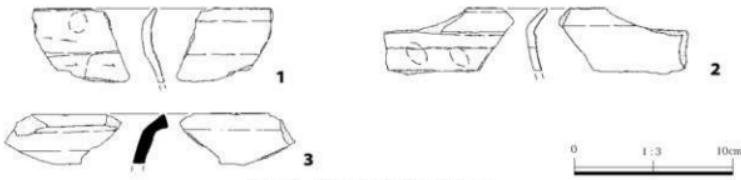
第245図 SX09出土遺物実測図(1/3・1/4)



第246図 SX10実測図・遺物出土状況図(1/60)

SX10 (第 246・247 図／第 38 表／P L 32・34)

位置 I-80 区 P-11 **重複関係** SX09 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 東側を SX09 に埋される。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 遺存状態が悪く平面形は不明である。規模は主軸 4.58 m、副軸 3.2 m 以上、深さ 33 cm、床面積 8.3 m²。 **主軸方位** N-22°-W **壁・壁溝** 壁高は北壁 21 cm、南壁 8 cm。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 踏み締りや貼床などは認められなかった。 **柱穴** 確認されなかった。 **カマド** 確認されなかった。 **その他の施設** 確認されなかった。 **遺物出土状況** コの字状口縁甕を含む土師器片 56 点、瓶を含む須恵器片 3 点が出土した。 **遺物** 土師器甕 2 点、須恵器瓶 1 点を図示した。 **備考** カマドやその他の施設が確認されず、住居と断定できなかったため竪穴式遺構とした。帰属時期は、出土遺物から 9 世紀後半から 10 世紀前半と考えられる。



第247図 SX10出土遺物実測図(1/3)

(3) 遺物集中

SJ01 の南、黒色土中で平安時代の遺物がまとまって出土したため、遺物集中として調査を進めた。その後、竪穴住居跡の可能性を考え、トレンチを入れて確認したが、遺構は確認されなかったため、当初の通り遺物集中として扱った。

山根Ⅳ
遺跡Ⅱ

1号遺物集中 (SU01) (第 248・250 図／第 38 表／P L 34)

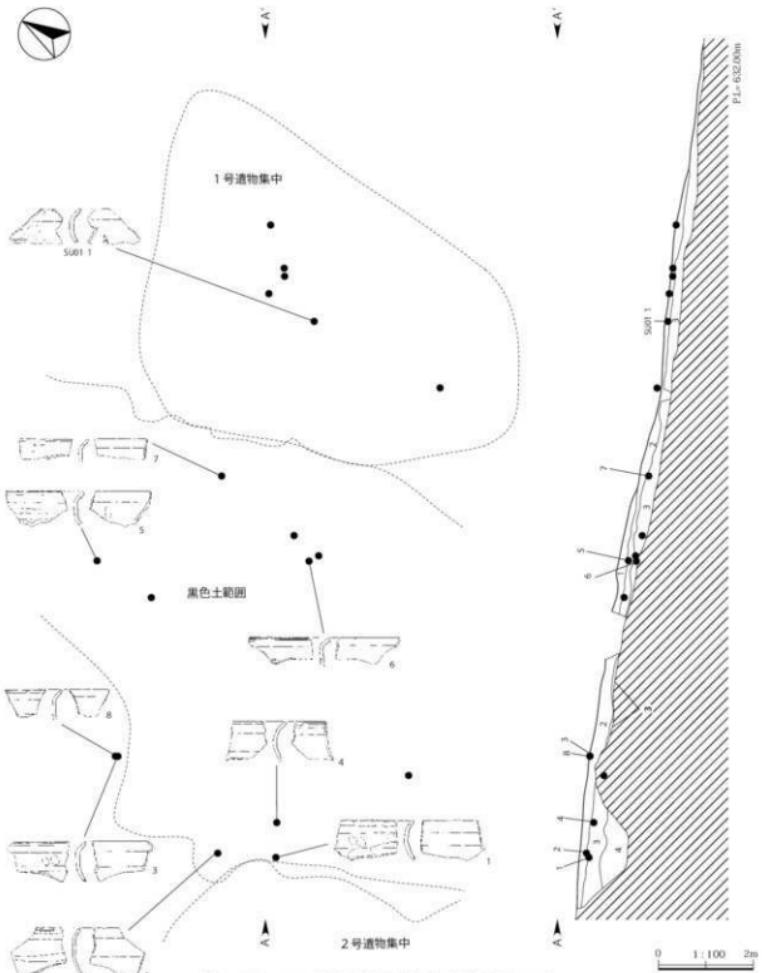
位置 I-80 区 S-9 **重複関係** なし。 **規模** 幅 5.92 m、長さ 8.0 m の範囲である。 **遺物出土状況** 土師器片 122 点、須恵器片 5 点が出土したが、ほとんどが器種不明の小破片であった。出土遺物のうち、遺存状態の良い土師器甕 1 点を選び図示した。 **備考** 帰属時期は、出土遺物から 9 世紀頃と考えられる。

2号遺物集中 (SU02) (第 249・251 図／第 38 表／P L 34)

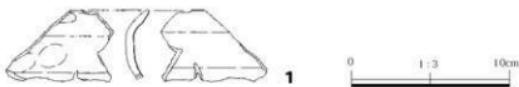
位置 I-80 区 Q-10 **重複関係** なし。 **規模** 幅 5.72 m、長さ 8.3 m の範囲である。 **遺物出土状況** 土師器片 128 点、須恵器片 2 点、灰釉陶器 1 点が出土したが、ほとんどが器種不明の小破片であった。出土遺物のうち、遺存状態の良い土師器の甕・椀各 1 点、灰釉陶器碗 1 点を図示した。 **備考** 帰属時期は、出土遺物から 9 世紀後半から 10 世紀前半頃と考えられる。

黒色土範囲 (第 252～253 図／第 38 表／P L 34)

位置 I-80 区 R-9 **重複関係** なし。 **規模** 幅 2.1 m、長さ 3.5 m の範囲である。 **遺物出土状況** 土師器片 209 点、須恵器片 5 点、灰釉陶器 1 点が出土したが、ほとんどが器種不明の小破片であった。出土遺物のうち、遺存状態の良い土師器の甕の口縁部片 9 点を図示した。いずれもコの字状口縁甕である。 **備考** 帰属時期は、出土遺物から 9 世紀後半頃と考えられる。



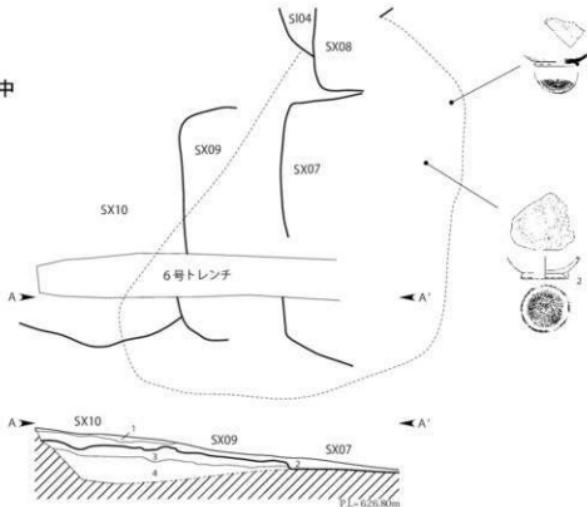
第248図 SU01-黒色土範囲遺物出土状況図(1/100)



第249図 SU01出土遺物実測図(1/3)



2号遺物集中

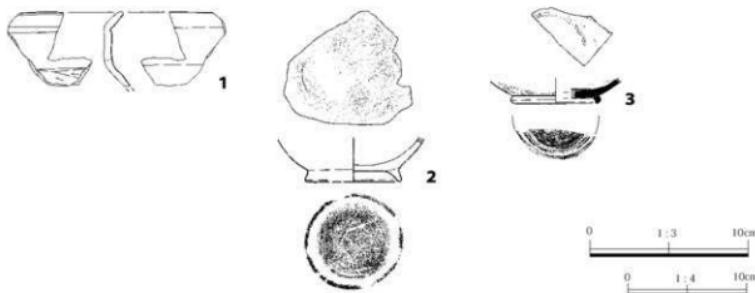


2号遺物集中 土層説明 AA'

1. 暗オリーブ褐色粘土層：粘性あり。しまり弱い、YPk ($\phi 0.3\sim1.5cm$)微量含む。
2. 黒褐色粘土層：粘性あり。しまり弱い、炭化物 ($\phi 0.2\sim2.5cm$)少量含む、YPk ($\phi 0.2\sim1.0cm$)微量含む。
3. 暗灰黄色粘土層：粘性あり。しまり弱い、白色粒 ($\phi 0.2\sim2.0cm$)・炭化物 ($\phi 0.2\sim2.0cm$)微量含む。
4. 黑褐色粘土層：粘性あり。しまり中弱い、白色粒 ($\phi 0.2\sim3.0cm$)微量含む。

0 1:100 2m

第250図 SU02実測図・遺物出土状況図 (1/100)



第251図 SU02出土遺物実測図 (1/3・1/4)

黑色土範囲 土層説明

AA' BB'

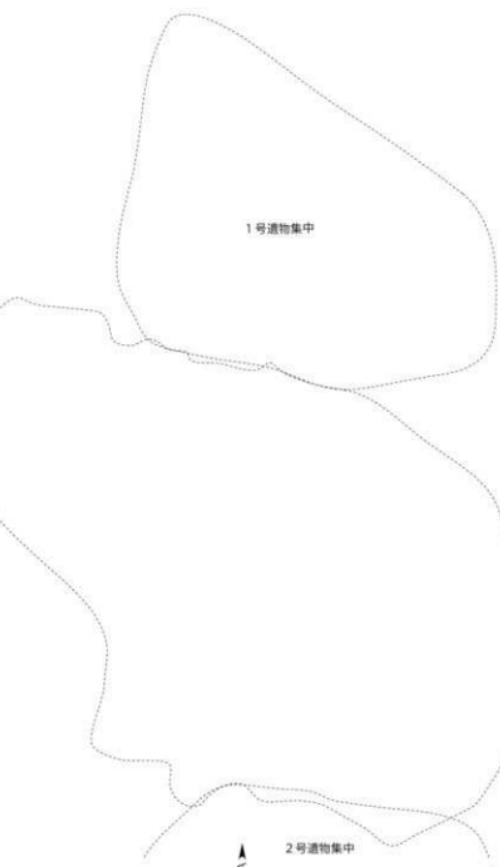
1. 黒褐色粘土層：粘性あり。しまり弱い、炭化物 ($\phi 0.5\sim2.0cm$)微量含む。
2. 黒褐色粘土層：粘性あり。しまり弱い、炭化物 ($\phi 0.3\sim1.0cm$)微量含む。
3. 暗灰黄色粘土層：粘性あり。しまり弱い、白色粒 ($\phi 0.2\sim1.5cm$)・炭化物 ($\phi 0.2\sim1.0cm$)微量含む。
4. オリーブ黒色粘土層：粘性あり。しまり弱い、ロームブロック ($\phi 0.5\sim4.0cm$)・白色粒 ($\phi 0.2\sim1.0cm$)微量含む。



黒色土範囲

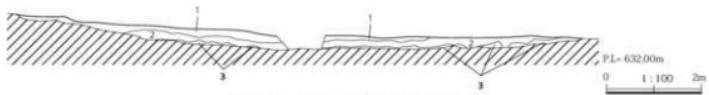


1号遺物集中

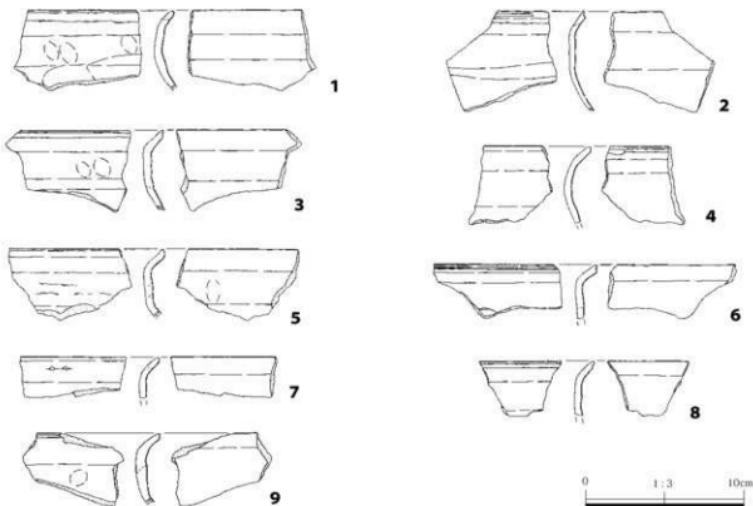


山根IV遺跡II

第252図 黒色土範囲実測図(1/100)



第253図 黒色土範囲断面図(1/100)



第254図 黒色土範囲出土遺物実測図(1/3)

第4節 時期不明の遺構と遺物

(1) 土坑

形態に特徴がなく、時期を特定し得る出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

SK01 (第255図)

位置 2-61区A-17 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。

平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸92cm、短軸76cm、深さ30cm。 **主軸方位** N-3°-E

壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK02 (第255図)

位置 1-70区T-18 **重複関係** なし。 **遺存状態** 南西部が調査区外となるが、概ね良好である。

覆土 黄褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸70cm、短軸44cm以上、深さ52cm。 **主軸方位** N-37°-W **壁面** 北西壁は階段状に、南東壁は外傾して立ち上がる。

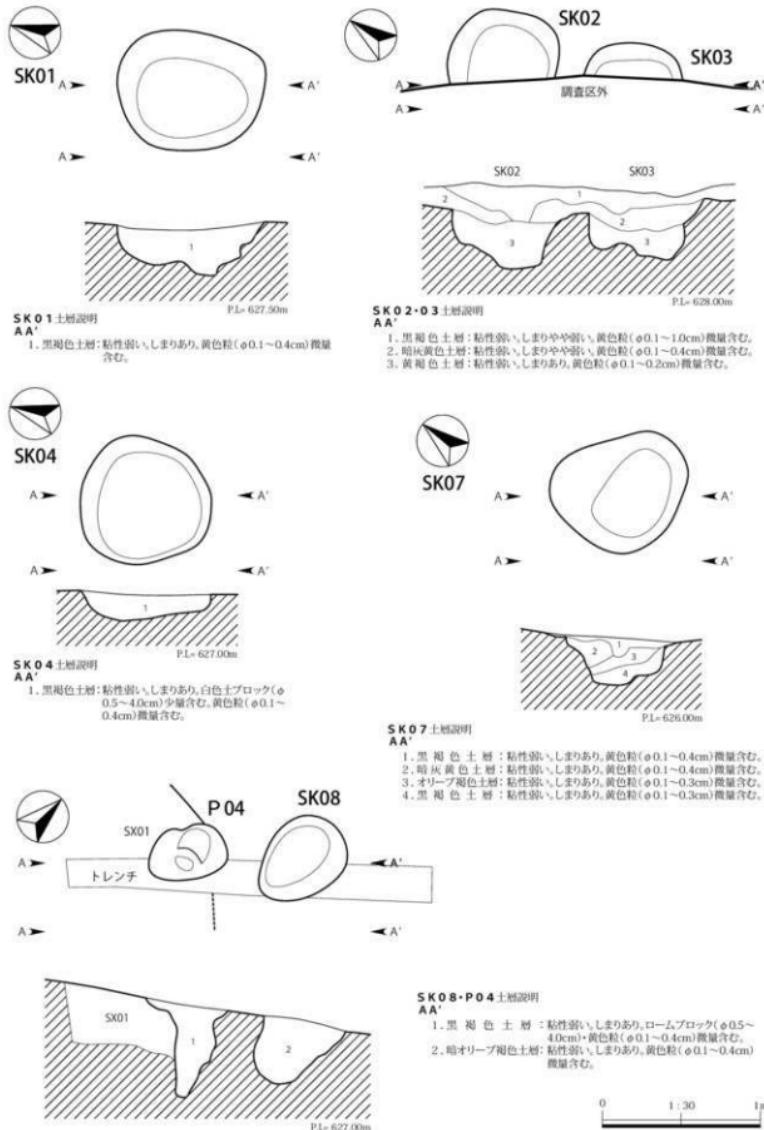
底面 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK03 (第255図)

位置 1-70区T-18 **重複関係** なし。 **遺存状態** 南西部が調査区外となるが、概ね良好である。

覆土 上層は暗灰黄色土、下層は黄褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸56cm、短軸20cm以上、深さ40cm。 **主軸方位** N-33°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。

底面 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** なし。



第255図 SK01~04・07・08・P04実測図(1/30)

SK04 (第 255 図)

位置 2-71 区 C-2 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 円形を呈する。規模は長軸 84cm、短軸 80cm、深さ 16cm。 **主軸方位** N-10°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 北に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK07 (第 255 図)

位置 2-61 区 C-19 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。
平面形と規模 不整円形を呈する。規模は長軸 80cm、短軸 78cm、深さ 30cm。 **主軸方位** N-19°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK08 (第 255 図)

位置 1-70 区 T-16 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗オリーブ褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 62cm、短軸 42cm、深さ 43cm。 **主軸方位** N-10°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK09 (第 256 図)

位置 2-71 区 B-2 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 楕丸方形を呈する。規模は長軸 86cm、短軸 85cm、深さ 10cm。 **主軸方位** N-77°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK10 (第 256 図)

位置 2-71 区 B-2 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 円形を呈する。規模は長軸 82cm、短軸 82cm、深さ 16cm。 **主軸方位** N-22°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK11 (第 256 図)

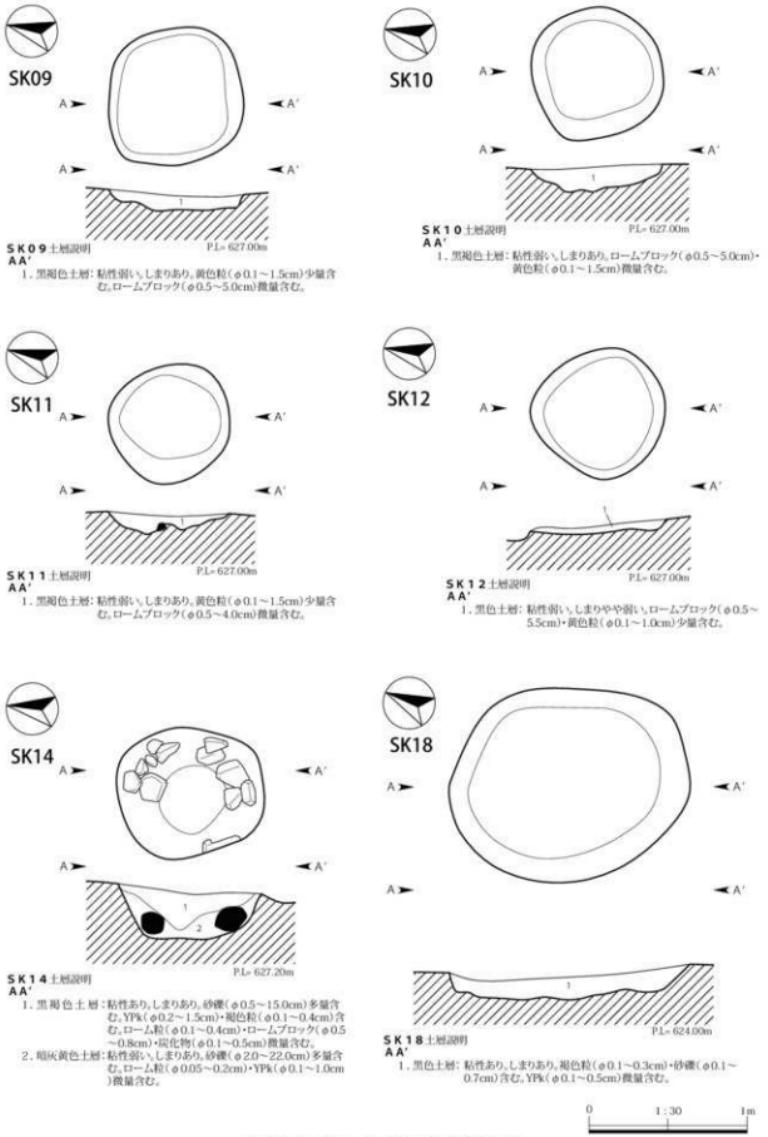
位置 2-71 区 B-1 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 円形を呈する。規模は長軸 76cm、短軸 76cm、深さ 13cm。 **主軸方位** N-11°-W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** やや凹凸があり、中央に向かって傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK12 (第 256 図)

位置 2-71 区 C-1 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 円形を呈する。規模は長軸 85cm、短軸 82cm、深さ 7cm。 **主軸方位** N-15°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK14 (第 256 図／PL 32)

位置 2-71 区 B-2 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗灰黄色土が基調で、自然堆積を示す。
平面形と規模 円形を呈する。規模は長軸 96cm、短軸 80cm、深さ 31cm。 **主軸方位** N-7°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 北に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** なし。



第256図 SK09~12+14+18実測図(1/30)

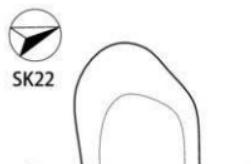


SK19 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、砂礫($\phi 0.1\sim1.5cm$)微量含む。
2. 黒色土層：粘性弱い、しまり弱い、褐色粒($\phi 0.05\sim0.3cm$)含む、砂礫($\phi 0.1\sim2.0cm$)少量含む。Ypk($\phi 0.1\sim1.0cm$)微量含む。
3. 黄灰色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒($\phi 0.1\sim0.2cm$)・砂礫($\phi 0.5\sim4.0cm$)含む。
3. 暗灰黄色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒($\phi 0.1\sim0.2cm$)・砂礫($\phi 2.0\sim30.0cm$)多量含む。

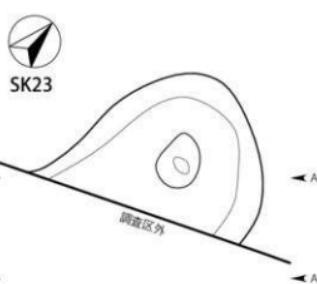
SK20 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層：粘性あり、しまりやや弱い、褐色粒($\phi 0.1\sim0.4cm$)多量含む。砂礫($\phi 0.5\sim15.0cm$)含む。ローム粒($\phi 0.05\sim1.1cm$)・ロームブロック($\phi 0.5\sim2.5cm$)・Ypk($\phi 0.1\sim0.4cm$)微量含む。
2. 黄灰色土層：粘性弱い、しまり弱い、褐色粒($\phi 0.1\sim0.2cm$)・砂礫($\phi 0.5\sim7.0cm$)少量含む。
3. 暗灰黄色土層：粘性弱い、しまりあり、砂礫($\phi 0.5\sim13.0cm$)含む。ローム粒($\phi 0.05\sim0.2cm$)・Ypk($\phi 0.1\sim1.0cm$)微量含む。



SK22

A A' PL-627.50m

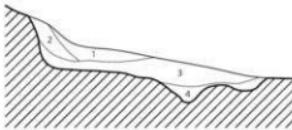


SK23

調査区外
A A' PL-633.00m

SK22 土層説明
AA'

1. 黒色土層：粘性弱い、しまり弱い、ローム粒($\phi 0.1\sim0.4cm$)・ロームブロック($\phi 0.5\sim4.0cm$)・Ypk($\phi 0.2\sim0.5cm$)微量含む。



PL-633.00m

SK23 土層説明
AA'

1. オリーブ黒色粘土層：粘性弱い、しまりやや弱い、ロームブロック($\phi 0.5\sim2.5cm$)・Ypk($\phi 0.2\sim1.0cm$)・炭化物($\phi 0.2\sim1.5cm$)微量含む。
2. 黒褐色粘土層：粘性弱い、しまりやや弱い、Ypk($\phi 0.1\sim0.4cm$)微量含む。
3. オリーブ黒色粘土層：粘性弱い、しまりやや弱い、Ypk($\phi 0.2\sim2.0cm$)少量含む。炭化物($\phi 0.3\sim2.5cm$)微量含む。
4. 暗灰黄色粘土層：粘性弱い、しまり弱い、Ypk($\phi 0.2\sim0.5cm$)微量含む。

0 1:30 1m

第257図 SK19-20-22-23実測図(1/30)

SK18 (第 256 図)

位置 2-61 区 E-17 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 152cm、短軸 112cm、深さ 14cm。 **主軸方位** N-24°-W
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK19 (第 257 図)

位置 2-71 区 A-3 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒色土、下層は暗灰黄色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 不整椭円形を呈する。規模は長軸 102cm、短軸 60cm、深さ 63cm。
主軸方位 N-17°-W **壁面** 北壁は外傾し、南壁はやや内傾して立ち上がる。 **底面** 中央部の窪みに向かって傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK20 (第 257 図／PL 32)

位置 2-71 区 B-2 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 88cm、短軸 72cm、深さ 34cm。 **主軸方位** N-88°-E
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 柱痕が認められる。

SK22 (第 257 図)

位置 2-71 区 A-5 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 150cm、短軸 74cm、深さ 19cm。 **主軸方位** N-82°-W
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 北に向かって傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK23 (第 257 図)

位置 1-80 区 P-11 **重複関係** なし。 **遺存状態** 南側が調査区外であるが、概ね良好である。
覆土 オリーブ黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 122cm 以上、
 短軸 118cm、深さ 25cm。 **主軸方位** N-5°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸があり、北
 東に向かって傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK24 (第 258 図／PL 32)

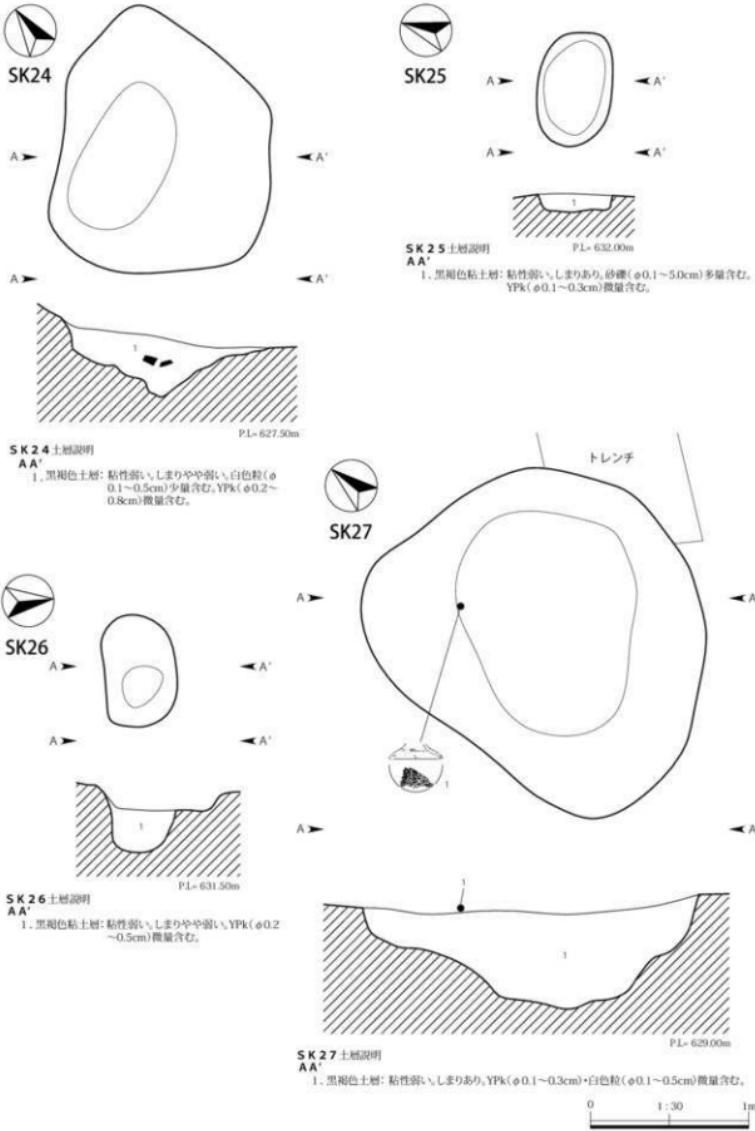
位置 2-71 区 A-5 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 不整形を呈する。規模は長軸 170cm、短軸 133cm、深さ 37cm。 **主軸方位** N-31°-E
壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央部の窪みに向かって傾斜する。 **遺物** 時期不明の土師器片 1 点
 と陶磁器片 2 点が出土したが、図示しなかった。 **備考** なし。

SK25 (第 258 図)

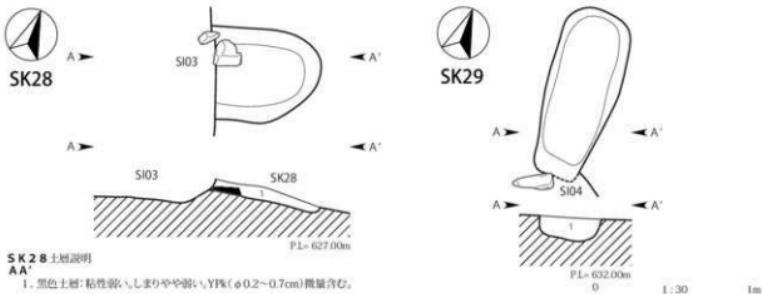
位置 1-80 区 Q-11 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 74cm、短軸 46cm、深さ 12cm。 **主軸方位** N-83°-E
壁面 ほぼ直立に立ち上がる。 **底面** 平坦である。 **遺物** 土師器片が 1 点出土したが、図示しなかつた。
備考 なし。

SK26 (第 258 図／PL 32)

位置 1-80 区 Q-10 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 70cm、短軸 46cm、深さ 27cm。 **主軸方位** N-88°-E



第258図 SK24~27実測図(1/30)



第259図 SK28-29実測図(1/30)



第260図 時期不明土坑出土遺物実測図(1/4)

壁面 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

SK27 (第 258・260 図／第 38 表／P L 34)

位置 I-80 区 T-7 重複関係 なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。
平面形と規模 不整円形を呈する。規模は長軸 204cm、短軸 196cm、深さ 60cm。 **主軸方位** N-20°-E
壁面 階段状に外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜する。 **遺物** 土師器台付裏の高台部が 1 点出土し、図示した。 **備考** 出土遺物は出土状況から混入の可能性が考えられるため、帰属時期は不明とした。

SK28 (第 259 図)

位置 2-71 区 C-5 重複関係 SI03 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** SI03 に東壁を壊される。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 68cm 以上、短軸 56cm、深さ 9cm。 **主軸方位** N-69°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 東に向かって傾斜する。 **遺物** 土師器片が 3 点出土したが、図示しなかった。 **備考** なし。

SK29 (第 259 図／P L 32)

位置 I-80 区 P-9 重複関係 SI04 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黑褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 椭円長方形を呈する。規模は長軸 108cm、短軸 46cm、深さ 15cm。 **主軸方位** N-5°-W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

(2) ピット (第 261 図／第 36・38 表／P L 34)

今回の発掘調査では、ピットは 27 基確認された。そのほとんどは調査区南部、とりわけ黒色土範囲周辺に

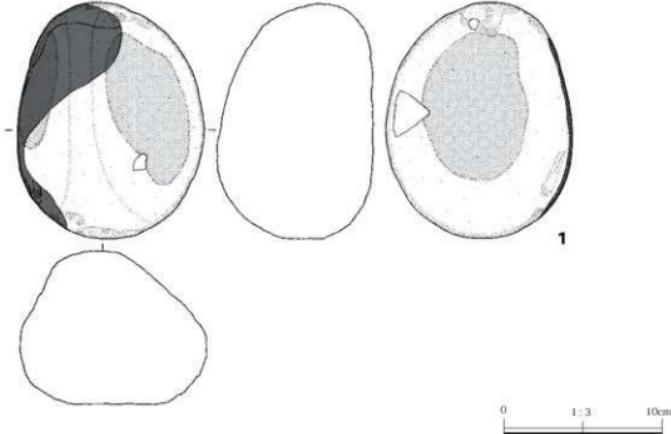
集中している。建物の柱穴と考えられるものは確認されなかった。P 12・17 以外には遺物を出土するものは見られなかった。全てのピットの平面形や規模などの情報は、第36表に記載した。

第36表 山根IV遺跡IIピット観察表

遺構名	位置	平面形	規模(cm)			備考	遺構名	位置	平面形	規模(cm)			備考
			長軸長	短軸長	深さ					長軸長	短軸長	深さ	
P01	2-61 区B-12	円形	60	(44)	10	A	P15	1-80 区Q-10	楕円形	38	22	34	A
P02	1-70 区S-13	円形	(48)	38	12	A	P16	1-80 区R-9	円形	30	24	33	B
P03	1-70 区T-16	円形	80	70	37	A	P17	1-80 区R-9	不整円形	28	24	17	B
P04	1-70 区T-16	円形	38	32	57	A	P18	1-80 区R-8	楕丸方形	46	40	21	B
P05	2-71 区D-6	円形	30	26	26	A	P19	1-80 区R-9	円形	38	30	30	B
P06	2-71 区D-4	不整精円形	48	26	17	A	P20	1-80 区R-8	円形	40	34	29	B
P07	2-71 区C-4	不整円形	40	34	42	A	P21	1-80 区T-9	不整楕円形	32	20	37	A
P08	2-71 区B-8	円形	26	22	14	A	P22	1-80 区R-9	円形	46	40	24	B
P09	2-71 区A-7	円形	30	20	12	A	P23	1-80 区R-9	楕円形	28	20	18	B
P10	2-71 区A-8	円形	20	16	16	A	P24	1-80 区R-9	円形	30	28	35	B
P11	2-71 区A-8	不整円形	22	20	18	A	P25	1-80 区R-8	楕丸長方形	40	30	23	B
P12	2-71 区A-9	楕円形	34	24	17	C	P26	1-80 区R-8	不整円形	30	(20)	13	B
P13	1-80 区R-9	楕円形	30	20	27	B	P27	1-80 区R-8	楕円形	38	20	22	B
P14	1-80 区R-9	不整円形	24	20	20	B							

※ A : 黒褐色土 B : オリーブ黒色土 C : 暗灰色

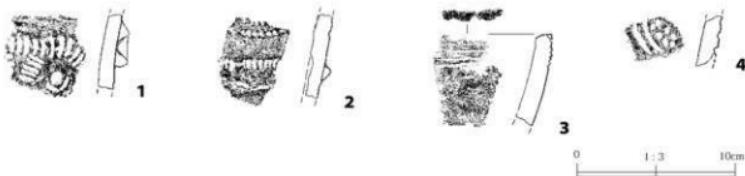
P12



第261図 ピット出土遺物実測図(1/3)

第5節 遺構外出土遺物 (第262図/第38表/P L 34)

ここでは、調査区表土および確認面出土遺物を掲載する。遺構外出土遺物は、縄文時代中期の土器片、平安時代の土師器・須恵器・中近世陶磁器などが出土している。これらの遺物から、口縁部など遺存状態の良いものを選んで図示した。



第262図 遺構外出土遺物実測図(1/3)

第5章 まとめ

今回発掘調査を行なった山根IV遺跡IIでは、縄文時代の竪穴状遺構6基、土坑5基、平安時代の竪穴住居跡4軒、竪穴状遺構3基、遺物集中2カ所、時期不明の土坑24基、ピット27基が確認された。

縄文時代の遺構は、竪穴状遺構が6基(SX01～SX06)検出されたが、いずれも出土遺物から中期中葉と考えられる。炬や踏み織りが認められず、形状や立ち上がりも不明瞭であったため住居として扱わなかつたが、林地区の上原II遺跡でも同様の遺構が確認されており、立馬II遺跡や楡木II遺跡でも形状やピットの並びが不明瞭な住居が見られる。住居として使用されていた可能性は完全に否定はできないが、周辺では焼土も検出されておらず、屋外炉と呼べるような遺構も検出されなかった。これらの状況から、やはり住居と呼ぶことは控えたい。出土遺物は新巻・焼町系の土器が主体で、勝坂式土器も客体的に出土する。以上から、縄文遺跡としての存続期間は中期前半から中期中葉であると考えられる。信州系の土器が主体的に出土する当遺跡は、浅間山を中心とした長野県域と当地域との交流を示す好例である。

平安時代の竪穴住居跡は3軒が確認された。SI02は調査区外に続いており、集落域はさらに広がる可能性がある。コの字状口縁甕を伴うものがSI01・SI03・SI04、羽釜を伴うものがSI02である。よってSI02はやや新しく10世紀前半、その他の住居は9世紀後半頃と推定できる。カマドはSI01・SI02が東カマド、SI04が北カマドである。SI03はカマドなどの施設を伴わず壁や床面も不明瞭であるため、住居ではないと考えられる。規模はいずれも3m台～4.5m程度と中小規模である。軒数・規模とともに小規模であるため、当地域を包括する拠点集落ではなく一般的な集落であったと考えられる。

第37表 山根IV遺跡II 平安時代住居跡諸属性一覧

遺構名	長軸方向	規模(cm × m)				主柱配置 位置	カマド 構築方法	周溝	付帯施設	遺物				時期	
		主軸	副軸	壁高	面積					灰釉	墨書き	羽釜	鉄製品	鉄滓	
SI01	N-80°-E	340	376	40	10.69	—	東壁 石組・土で造成	—	—	—	—	—	—	—	9世紀後半
SI02	N-84°-E	(315)	456	58	12.88	—	東壁 石組・土で造成	—	—	—	○	○	○	○	10世紀前半
SI03	N-73°-E	311	389	34	7.74	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9世紀後半
SI04	N-38°-E	328	380	40	9.38	—	北壁 石組・土で造成	—	野庭穴	—	—	—	—	—	9世紀後半

第38表 山根IV遺跡II出土遺物觀察表

284

SX03 出土遺物觀察表		特徴(形態・手法等)		地況		断土・付箋等		色調外斑／舌斑		備考	
番号	品目	法則(規則)／口径(直径)/底径(Φ)	規則(規則)／底径(Φ)	良好	不良	良好	不良	褐色	褐色	褐色	褐色
2200.1	—	圓筒	(2.8) /—/-	規則外筒形, 頂部上口に斜め文を施す。中筋下(焼成1次)。	良好	不良	良好	褐色	褐色	褐色	SX03
2200.2	33	圓文・圓・ 深鉢	(4.6) /—/-	輪底外筒形, 脚部をなじませ、外周端子下(焼成1次)。	良好	不良	良好	褐色	褐色	褐色	SX03
2200.3	33	圓文・圓・ 深鉢	(0.5) /—/-	浅縁外筒形の文様を施す。地中筋下(焼成1次)。	良好	不良	良好	褐色	褐色	褐色	SX03
2200.4	33	圓文・圓・ 深鉢	(0.6) /—/-	平行する化粧を3条施す。地中筋下(焼成1次)。	良好	不良	良好	褐色	褐色	褐色	SX03
2200.5	33	圓文・圓・ 深鉢	(0.5) /—/-	輪底外筒形1, 追加する追加を2からす。中筋中筋(焼成1次)。	良好	良好	良好	褐色	褐色	褐色	SX03
2200.6	—	圓文	(3.9) /—/-	圓筒外筒形1, 脚部を平行する追加を施す。中筋中筋(焼成1次)。	良好	良好	良好	褐色	褐色	褐色	SX03
2200.7	—	圓文	(3.1) /—/-	圓筒外筒形1, 周辺に平行する追加文を施す。地中筋(焼成1次)。	良好	良好	良好	褐色	褐色	褐色	SX03
2200.8	33	圓文	(3.5) /—/-	圓筒外筒形1, 周辺に平行する追加文を施す。外周部と同方にナデ。中筋中筋(焼成1次)。	良好	良好	良好	褐色	褐色	褐色	SX03
2200.9	33	圓文	(2.4) /—/-	圓筒外筒形1, 周辺に追加を施す。中筋(焼成1次)。	良好	良好	良好	褐色	褐色	褐色	SX03
2200.10	33	圓文	(0.0) /—/-	コトハ形の文様を施す。地中筋(焼成1次)。	良好	良好	良好	褐色	褐色	褐色	SX03
2200.11	33	圓文	(0.1) /—/-	圓筒外筒形1, 周辺に平行追加文を施す。地中筋(焼成1次)。	良好	良好	良好	褐色	褐色	褐色	SX03
2200.12	33	圓文・落・ 深鉢	(4.7) /—/-	つまみ足の突起を削除し、脚部追加による文を施す。中筋中筋(焼成1次)。	良好	良好	良好	褐色	褐色	褐色	SX03
SX04 出土遺物觀察表		特徴(形態・手法等)		地況		断土・付箋等		色調外斑／舌斑		備考	
番号	品目	法則(規則)／口径(直径)/底径(Φ)	規則(規則)／底径(Φ)	良好	不良	良好	不良	褐色	褐色	褐色	褐色
2222.1	33	圓文・圓・ 深鉢	(2.9) /—/-	規則外筒形, 頂部上口に斜め文を施す。中筋下(焼成1次)。	良好	良好	良好	褐色	褐色	褐色	SX04/42
2222.2	—	圓文・圓・ 深鉢	(2.4) /—/-	規則外筒形(焼成1次)。	良好	良好	良好	褐色	褐色	褐色	SX04/4
SX05 出土遺物觀察表		特徴(形態・手法等)		地況		断土・付箋等		色調外斑／舌斑		備考	
番号	品目	法則(規則)／口径(直径)/底径(Φ)	規則(規則)／底径(Φ)	良好	良好	良好	良好	褐色	褐色	褐色	褐色
2255.1	33	圓文	(3.4) /—/-	直筒および輪底の状態が施される。中筋中筋(焼成1次)。	良好	良好	良好	褐色	褐色	褐色	SX05
縄文時代土坑出土遺物觀察表		特徴(形態・手法等)		地況		断土・付箋等		色調外斑／舌斑		備考	
番号	品目	法則(規則)／口径(直径)/底径(Φ)	規則(規則)／底径(Φ)	良好	良好	良好	良好	褐色	褐色	褐色	褐色
2258.1	33	圓文・圓・ 深鉢	(4.3) /—/-	深縫切外筒形に追加の文を施す。中筋中筋(焼成1次)。	良好	良好	良好	褐色	褐色	褐色	SX06
2258.2	33	圓文・圓・ 深鉢	(5.2) /—/-	コトハ形の文様を施す。地中筋(焼成1次)。	良好	良好	良好	褐色	褐色	褐色	SX07
2258.3	33	圓文・圓・ 深鉢	(3.5) /—/-	外周に平行追加を施す。地中筋(焼成1次)。	良好	良好	良好	褐色	褐色	褐色	SX07
2258.4	33	圓文・圓・ 深鉢	(0.9) /—/-	外周に平行追加を施す。地中筋(焼成1次)。	良好	良好	良好	褐色	褐色	褐色	SX07
2258.5	33	圓文	(2.9) /—/-	輪底外筒形1, 並びに追加文を施す。中筋中筋(焼成1次)。	良好	良好	良好	褐色	褐色	褐色	SX07
2258.6	33	滑石	長9.5・幅30.0・厚7.2	重ね258 B. 異なる追加が1, 既存側面の追加が1。	—	—	—	—	—	—	SX07

S10出土遺物観察表									
種類No.	回収No.	基準	法面(頭頂) / (H面 基盤)	法面(頭頂) / (H面 基盤)	特徴(形態・手法)	特徴(形態・手法)	特徴(形態・手法)	特徴(形態・手法)	備考
228	7	33 縫合	長 (1.0) / 幅 (3.1) / 高 (7.0) / 厚 (3.0) 厚壁 163 g、四面とも整がれており、平滑面となっています。周縁は欠損する。	—	安心山	—	安心山	—	800年前後段落。
Z31	1	33 縫合	縫合	(4.7) / <—/—	円錐形の頭部を有し、口縫合部より外側へ向いて開口する。口縫合部外側にナット、内外面共に縫合位。縫合部と口縫合部が施されており、縫合部はより厚くへこむ。里	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。
Z31	2	33 縫合	縫合	長 (9.8) / 幅 (3.9) / 高 (7.6) 厚 (6.6)	切端部が頭部に付いており、頭部はより厚くへこむ。縫合部はより厚くへこむ。里	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。
S10出土遺物観察表									
種類No.	回収No.	基準	法面(頭頂) / (H面 基盤)	法面(頭頂) / (H面 基盤)	特徴(形態・手法)	特徴(形態・手法)	特徴(形態・手法)	特徴(形態・手法)	備考
Z34	1	33 縫合	縫合	(0.9) / <20>/—	平面的な頭部。外縫合部にカギ目。外縫合部は、内縫合部ナット、内外面共に縫合位。縫合部と外縫合部が施されており、外縫合部はより厚くへこむ。縫合部はより厚くへこむ。外縫合部ナット、内縫合部ナット、頭部断面二角形。内縫合部	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。
Z34	2	33 縫合	縫合	(6.0) / <—/—	外縫合部が頭部より厚くへこむ。外縫合部ナット、内縫合部ナット、頭部断面二角形。内縫合部	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。
Z34	3	30 縫合	縫合	(4.2) / <—/—	平面的な頭部。外縫合部が頭部より厚くへこむ。外縫合部ナット、内縫合部ナット、頭部断面二角形。内縫合部	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。
Z34	4	30 縫合	縫合	(2.4) / <—/ 8.0	平面的な頭部。外縫合部が頭部より厚くへこむ。外縫合部ナット、内縫合部ナット、頭部断面二角形。内縫合部	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。
Z34	5	30 縫合	縫合	長 (9.9) / 幅 (3.8) / 高 (3.2)	頭部 189 g、全面よく削り込まれた。周縁部は削り込みが大きい。頭部は均一な丸みを有する。	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。
Z34	6	33 縫合	縫合	長 (7.8) / 幅 (1.7) / 高 (0.9)	頭部 15 g、周縁部は丸みを有する。	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。
S10出土遺物観察表									
種類No.	回収No.	基準	法面(頭頂) / (H面 基盤)	法面(頭頂) / (H面 基盤)	特徴(形態・手法)	特徴(形態・手法)	特徴(形態・手法)	特徴(形態・手法)	備考
Z35	1	33 縫合	縫合	(3.8) / <—/—	円錐形の頭部を有する。外縫合部が頭部より厚くへこむ。外縫合部ナット、内縫合部ナット、頭部断面二角形。内縫合部	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。
Z35	2	33 縫合	縫合	(1.6) / <—/ <9.0>	削成部が頭部より厚くへこむ。外縫合部ナット、内縫合部ナット、頭部断面二角形。内縫合部	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。
Z35	3	33 縫合	縫合	(2.2) / <—/—	蓝色土面上に三寸引を施され、黒墨で墨書き。ロクロ型彌足。外縫合部ナット、内縫合部ナット、頭部断面二角形。内縫合部	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。
S10出土遺物観察表									
種類No.	回収No.	基準	法面(頭頂) / (H面 基盤)	法面(頭頂) / (H面 基盤)	特徴(形態・手法)	特徴(形態・手法)	特徴(形態・手法)	特徴(形態・手法)	備考
Z40	1	33 縫合	縫合	(14.3) / <20>/—	コガネ字頭部を有する。頭部はより薄くへこむ。外縫合部が頭部より厚くへこむ。外縫合部ナット、内縫合部ナット、頭部断面二角形。内縫合部	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。
Z40	2	33 縫合	縫合	(6.7) / <21>/—	コガネ字頭部を有する。頭部はより薄くへこむ。外縫合部が頭部より厚くへこむ。外縫合部ナット、内縫合部ナット、頭部断面二角形。内縫合部	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。
Z40	3	33 縫合	縫合	(5.0) / <21>/—	コガネ字頭部を有する。頭部はより薄くへこむ。外縫合部が頭部より厚くへこむ。外縫合部ナット、内縫合部ナット、頭部断面二角形。内縫合部	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。
Z40	4	33 縫合	縫合	(10.8) / 19.6 /—	コガネ字頭部を有する。頭部はより薄くへこむ。外縫合部が頭部より厚くへこむ。外縫合部ナット、内縫合部ナット、頭部断面二角形。内縫合部	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。
Z40	5	34 縫合	縫合	(6.1) / <—/—	コガネ字頭部を有する。頭部はより薄くへこむ。外縫合部が頭部より厚くへこむ。外縫合部ナット、内縫合部ナット、頭部断面二角形。内縫合部	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。
Z40	6	34 縫合	縫合	(6.4) / <—/—	コガネ字頭部を有する。頭部はより薄くへこむ。外縫合部が頭部より厚くへこむ。外縫合部ナット、内縫合部ナット、頭部断面二角形。内縫合部	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。
Z40	7	34 縫合	縫合	(4.1) / <—/—	頭部はより薄くへこむ。外縫合部が頭部より厚くへこむ。外縫合部ナット、内縫合部ナット、頭部断面二角形。内縫合部	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。
Z40	8	34 縫合	縫合	(3.3) / <—/—	頭部はより薄くへこむ。外縫合部が頭部より厚くへこむ。外縫合部ナット、内縫合部ナット、頭部断面二角形。内縫合部	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。
Z40	9	— 柱輪	— 柱輪	(2.0) / <16.2>/—	ロクロ型彌足。内縫合部もロクロナット。頭部に柱輪がある。	削成	削上・材質等 良好	削上・材質等 良好	194形・削底 10%残存。

240.10	-	圓底盤・ 斜方板	(3.7) / - / -	口クロ型鋸。内面裏とともにロクロナチ。内面ヨコ口沿明顯。
240.11	-	斜方板・ 斜方板	(3.9) / - / -	口クロ型鋸。内面裏とともにロクロナチで、外側のクロ口沿濃黒。
240.12	-	斜方板・ 斜方板	(3.9) / - / -	口クロ型鋸。内面裏とともにロクロナチ。

SX07 出土遺物觀察表

測定No.	器種	法掛/器底/口径/底径/高さ	特徴 (形態・手法等)	測定/寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法
242. 1	34	上脚踏・異 斜方板	(4.7) / - / -	[内脚底部は底と斜面で仕切られ、内面斜面ナチ。外側脚底ナチ。体傾倒型ヘタケナチ]。	脚底 斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面
242. 2	34	上脚踏・異 斜方板	(6.1) / < 22.0 > / -	[コロナチ底脚鋸。口横幅が外側よりは狭い傾向。内側脚底が外側よりは広い傾向。内側脚底に斜面ナチ。体傾倒型ヘタケナチ]。	脚底 斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面
242. 3	34	上脚踏・ 斜方板	(2.6) / - / -	[内脚底と外側脚底間に傾斜がある。内脚底斜面ナチ。外側脚底斜面ナチ。外側脚底斜面は斜面]。	脚底 斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面
242. 4	34	上脚踏・ 斜方板	(2.8) / - / < 3.8 >	[内脚底斜面が底から斜面仕立て。外側脚底斜面仕立て。内脚底斜面ナチ。内脚底斜面は斜面]。	脚底 斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面
242. 5	34	上脚踏・ 斜方板	(2.7) / - / < 5.4 >	[底脚底斜面仕立て。内脚底斜面仕立て。内脚底斜面ナチ。内脚底斜面は斜面]。	脚底 斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面
242. 6	34	上脚踏・ 斜方板	(2.3) / - / < 8.0 >	[ロクロ型鋸。底脚底斜面仕立て。内脚底斜面仕立て。内脚底斜面ナチ。外側脚底斜面仕立て調整する]。	脚底 斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面
242. 7	-	圓底盤・ 斜方板	(3.1) / - / -	[ロクロ型鋸。内脚底斜面仕立て。外側脚底斜面仕立て。内脚底斜面ナチ。外側脚底斜面ナチ]。	脚底 斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面
242. 8	34	圓底盤・ 斜方板	5.5 / 13.4 / 6.4	[ロクロ型鋸。底脚底斜面仕立て。内脚底斜面ともにロクロナチ。斜面上に底脚底が残り、内脚底斜面は多く残る]。	脚底 斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面
242. 9	34	圓底盤・ 斜方板	(3.1) / - / < 8.0 >	[ロクロ型鋸。内脚底斜面仕立て。外側脚底斜面仕立て。内脚底斜面ナチ。外側脚底斜面ナチ]。	脚底 斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面

SX08 出土遺物觀察表

測定No.	器種	法掛/器底/口径/底径/高さ	特徴 (形態・手法等)	測定/寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法
243. 1	34	圓底盤・異 斜方板	(2.7) / - / < 15.1 >	[外側脚底斜面仕立て。内脚底斜面ナチ。底脚底斜面仕立て。内脚底斜面ナチを残す]。	脚底 斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面

SX09 出土遺物觀察表

測定No.	器種	法掛/器底/口径/底径/高さ	特徴 (形態・手法等)	測定/寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法
245. 1	34	上脚踏・異 斜方板	(5.3) / - / -	[コロナチ底脚鋸。内脚底斜面仕立て。外側脚底斜面仕立て。内脚底斜面ナチ]。	脚底 斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面
245. 2	-	上脚踏・異 斜方板	(2.6) / - / -	[コロナチ底脚鋸。内脚底斜面仕立て。外側脚底斜面仕立て。内脚底斜面ナチ]。	脚底 斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面
245. 3	-	圓底盤・ 斜方板	(3.1) / - / < 8.0 >	[ロクロ型鋸。内脚底斜面仕立て。外側脚底斜面仕立て。内脚底斜面ナチ]。	脚底 斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面
245. 4	-	圓底盤・ 斜方板	(4.1) / - / < 15.0 > / -	[ロクロ型鋸。外側脚底斜面仕立て。内脚底斜面ナチ]。	脚底 斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面
245. 5	34	圓底盤・ 斜方板	(7.3) / - / -	[ロクロ型鋸。内脚底斜面仕立て。外側脚底斜面仕立て。内脚底斜面ナチ]。	脚底 斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面

SX10 出土遺物觀察表

測定No.	器種	法掛/器底/口径/底径/高さ	特徴 (形態・手法等)	測定/寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法
247. 1	34	上脚踏・異 斜方板	(4.6) / - / -	[内脚底斜面仕立て。外側脚底斜面仕立て。内脚底斜面ナチ]。	脚底 斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面
247. 2	34	上脚踏・異 斜方板	(4.6) / - / -	[内脚底斜面仕立て。外側脚底斜面仕立て。内脚底斜面ナチ]。	脚底 斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面
247. 3	34	上脚踏・異 斜方板	(3.2) / - / -	[ロクロ型鋸。内脚底斜面仕立て。外側脚底斜面仕立て]。	脚底 斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面	斜面

SU01 出土遺物觀察表

番号No.	説明%	基種	法則 頭高 / 口径・底径 (mm)	特徴 (形態・手法等)	地質	断上・材質等	色調(外面／内面)	備考
249-1	34	上端部・裏	(4.5) / -/-	コロリ状突起部。口縁部上部は強烈な外反、下位部はすりこぎ状の外曲面を有する。	地底	断上・材質等 良好	明示開 69g	SU01
SU02 出土遺物觀察表								
番号No.	説明%	基種	法則 頭高 / 口径・底径 (mm)	特徴 (形態・手法等)	地質	断上・材質等	色調(外面／内面)	備考
251-1	34	上端部・裏	(4.6) / -/-	コロリ状突起部。口縁部上部は強烈な外反、下位部はすりこぎ状の外曲面を有する。	地底	断上・材質等 良好	白灰 69g	SU02
251-2	34	上端部・裏	(3.7) / -/-	(8.0) 内側底面、厚壁部を窪みで切付し、周辺を楕円形のナ渲げである。	地底	断上・材質等 良好	白灰 69g	SU02
251-3	34	上端部・裏	(5.1) / -/-	(7.4) ロゴ形部。内外どちらにロゴナ渲げ。外縁部が底より上方に傾斜し、内側部は外縁部に比べて傾斜が緩やかである。	地底	断上・材質等 良好	白灰 69g	SU02

黒色・青色出土遺物觀察表

番号No.	説明%	基種	法則 頭高 / 口径・底径 (mm)	特徴 (形態・手法等)	地質	断上・材質等	色調(外面／内面)	備考
254-1	34	上端部・裏	(5.1) / -/-	上端部底面が外方に、「横筋部」などと稱せられ、全体が外曲面を有する。内部は外縫合部(ナ渲げ)。	地底	断上・材質等 良好	白灰 69g	SU02
254-2	34	上端部・裏	(6.3) / -/-	コロリ状突起部。口縁部上部は強烈な外反、下位部はすりこぎ状の外曲面を有する。	地底	断上・材質等 良好	白灰 69g	SU02
254-3	34	上端部・裏	(5.1) / -/-	コロリ状突起部。口縁部上部は強烈な外反、下位部はすりこぎ状の外曲面を有する。	地底	断上・材質等 良好	白灰 69g	SU02
254-4	34	上端部・裏	(4.9) / -/-	コロリ状突起部。口縁部上部は強烈な外反、下位部はすりこぎ状の外曲面を有する。	地底	断上・材質等 良好	白灰 69g	SU02
254-5	34	上端部・裏	(4.4) / -/-	コロリ状突起部。口縁部上部は強烈な外反、下位部はすりこぎ状の外曲面を有する。	地底	断上・材質等 良好	白灰 69g	黒色上開
254-6	34	上端部・裏	(3.4) / -/-	内側底面、厚壁部を窪みで切付し、周辺を楕円形のナ渲げである。	地底	断上・材質等 良好	白灰 69g	黒色上開
254-7	34	上端部・裏	(2.6) / -/-	上端部底面に外反、口縁部外側部ともに楕円形ナ渲げ。上位部の底面は直線形である。	地底	断上・材質等 良好	白灰 69g	黒色上開
254-8	-	上端部・裏	(3.4) / -/-	コロリ状突起部。口縁部上部は強烈な外反、下位部はすりこぎ状の外曲面を有する。	地底	断上・材質等 良好	白灰 69g	黒色上開
254-9	34	上端部・裏	(4.6) / -/-	コロリ状突起部。口縁部上部は強烈な外反、下位部はすりこぎ状の外曲面を有する。	地底	断上・材質等 良好	白灰 69g	黒色上開

弱明不材土坑出土遺物觀察表

番号No.	説明%	基種	法則 頭高 / 口径・底径 (mm)	特徴 (形態・手法等)	地質	断上・材質等	色調(外面／内面)	備考
260-1	34	斜面部	(2.4) / -/- < 9.0 >	外縫合部上部あり、内部とともに楕円形ナ渲げ。	地底	断上・材質等 良好	白灰 69g	SU27

ピット出土遺物觀察表

番号No.	説明%	基種	法則 頭高 / 口径・底径 (mm)	特徴 (形態・手法等)	地質	断上・材質等	色調(外面／内面)	備考
261-1	34	斜面部	長石	頭部	地底	断上・材質等 良好	白灰 69g	P12

遺構外出土遺物觀察表

番号No.	説明%	基種	法則 頭高 / 口径・底径 (mm)	特徴 (形態・手法等)	地質	断上・材質等	色調(外面／内面)	備考
262-1	34	奥之頭・頭部	(4.7) / -/-	頭部に連続底部を有す。内縫合部(楕円形ナ渲げ)。	地底	断上・材質等 良好	白灰 69g	褐色斑
262-2	34	奥之頭・頭部	(5.2) / -/-	頭部を削り抜き、削面に連続底部を有す。内縫合部(楕円形ナ渲げ)。	地底	断上・材質等 良好	白灰 69g	褐色斑
262-3	34	奥之頭・頭部	(5.7) / -/-	頭部底面を削り抜き、削面に連続底部を有す。内縫合部(楕円形ナ渲げ)。	地底	断上・材質等 良好	白灰 69g	表-1
262-4	34	奥之頭・頭部	(3.0) / -/-	頭部の削り抜き部の削面に連続底部を有す。内縫合部(楕円形ナ渲げ)。	地底	断上・材質等 良好	白灰 69g	褐色斑

